

九州におけるスタートアップ育成への取り組み

2023年3月22日

(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ 取締役副社長

STARTプログラム 代表事業プロモーター

九州工業大学 客員教授

山口泰久

本日の講演内容

1. 自己紹介・自社紹介
2. イノベーションに関する時代背景と世界のトレンド
3. スタートアップ育成に関する九州エリア10の特徴
4. FFGベンチャービジネスパートナーズの取り組みについて
5. まとめ

自己紹介



山口泰久

Yasuhisa Yamaguchi M.Phil. (Cantab)

(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ
取締役副社長

STARTプログラム 代表事業プロモーター
九州工業大学 客員教授



日本開発銀行



UNIVERSITY OF
CAMBRIDGE



日本政策投資銀行
Development Bank of Japan



日本政策投資銀行グループ
DBJキャピタル株式会社



ふくおかフィナンシャルグループ
Fukuoka Financial Group

1. 多様なネットワークによる案件ソーシング
2. 多様な分野、多様なステージへの分散投資。テック系ベンチャーを選好。
3. 大学発ベンチャー振興会議を含む大学とのネットワーク、及び、700万件に及び特許DBのランキングをベースとするテクノロジー案件の獲得とスクリーニング
4. 豊富な専門家ネットワークによる技術・市場に亘る着実なデューデリジェンス
5. 取締役会における価値提供や、経営者を含む豊富なネットワークを活用した投資先へのハンズオン支援（経営支援）
6. 着実なEXITを実現（IPO及び売却）

Healthcare, Bio Science

シンバイオ製薬（株）（JASDAQ上場）
（株）アイセイ薬局（JASDAQ上場）
（株）ジーンテクノサイエンス（マザーズ上場）
ベルグアース（株）（JASDAQ上場）
KAICO（株）
（株）レポーン

Environment, Energy

アイピー・パワーシステム（株）（M&A売却）
（株）レノバ（マザーズ上場）
（株）Loop
（株）EVモーターズ・ジャパン

IT, Communication, Game

（株）Gumi（東証1部上場）
ネットマーケティング（JASDAQ上場）
（株）ナレッジスイート（マザーズ上場）
（株）YAMAP
（株）モンスターラボ

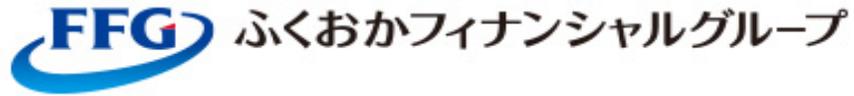
Manufacturing

サイバーダイン（株）（マザーズ上場）
ヴィスコテクノロジーズ（株）（JASDAQ上場）
（株）テクノフレックス（東証2部上場）
（株）QPS研究所
（株）A.L.I.Techonologies（NASDAQ上場）
HMS（株）

Service, others

日本エッジアシスタンス（株）（JASDAQ上場）
G-FACTORY（株）（マザーズ上場）
（株）アイセイ薬局（JASDAQ上場）
（株）ビザスク（マザーズ上場）
キュレーションズ（株）
akippa（株）

(株)FFGベンチャービジネスパートナーズについて



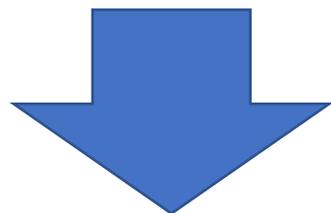
九州を地盤に、地域経済発展への貢献と企業価値向上を目指す地銀系最大の金融グループです。

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズは
ふくおかフィナンシャルグループが設立したVCです。

- 大学発ベンチャーを中心に、あらゆる分野のベンチャーを支援します。
- 投資先や投資先候補のベンチャー企業に対し、ビジネスモデルのブラッシュアップや企業パートナーのご紹介等のハンズオン支援を行います。
- ファンド運用規模は約300億円。ファンド期間は15年、民間VCとしては、珍しいペイシエントキャピタルです。

FFGベンチャーファンドの目標とミッション

九州において新産業を創出するために
内発型ベンチャーの育成が急務。
九州から**ユニコーン・ベンチャー**を！



ミッション

リスクマネーの供給
技術事業化プログラムの提供
スタートアップ**エコシステムの構築**
FFG取引先との協業

FFGベンチャービジネスパートナーズの概要



FFGベンチャービジネスパートナーズ

- 大きなリスクマネーが必要とされる研究開発型スタートアップに対しても、継続的にフォローオン投資が出来る300億円規模の九州最大のVCとして、積極的な投資活動を実施。

株主	(株)ふくおかフィナンシャルグループ100%
ファンド規模	運用総額 270億円
設立	1号：2017年5月 CVC：2020年4月 2号：2020年1月 FOF：2022年2月 3号：2022年8月
運用期間	15年間
投資対象	業種を限定しないあらゆるスタートアップ
投資地域	九州・福岡を中心に日本全国&海外

QOF

九州オープンイノベーションファンド
共同GP：Gx Partners と共に運営
1号：2019/4 10億円
2号：2022/8 ~ 20億円程度予定



大学発ベンチャーを中心にDeeptech投資に特徴
「JST/STARTプロジェクト」、「NEDO/STS事業」
「九州・大学発ベンチャー振興会議」と連携
ドローン、宇宙、創薬・バイオ、AI、AR/VR



幅広い投資領域と投資ステージ、+ FOF
ITサービスやフィンテック等多様な領域に投資
あらゆる投資ステージに分散投資



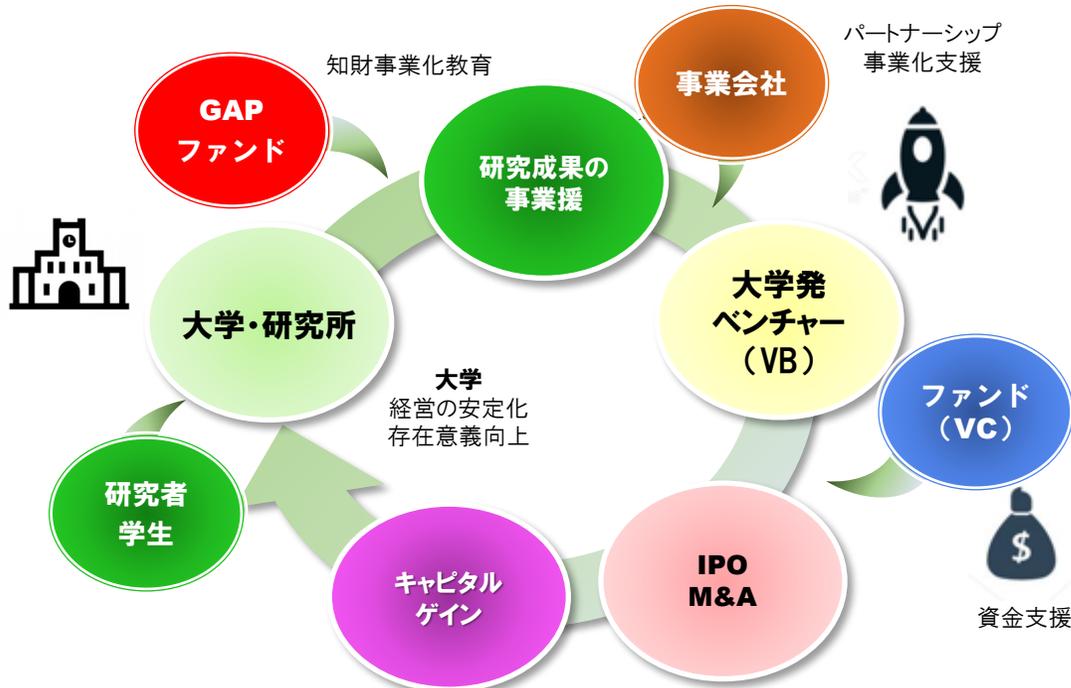
九州地域企業とのマッチング、福岡の魅力
福岡・熊本・十八親和銀行及びみんなの銀行と
お取引のある企業様とスタートアップ企業をマッチング

九州・大学発ベンチャー振興会議

「九州・大学発ベンチャー振興会議」

- 九州の各大学が情報交換をしながらノウハウの共有や連携を行うとともに、経済界がこれをバックアップし、九州が一丸となって**大学発ベンチャーを振興する**組織の設立(2017年2月)
- 構成メンバーは、九州・沖縄の国立大学及び主要私立大学学長並びに産業界の代表
- 毎年約30プロジェクトを選択し、**投資、GAPファンドの提供**(研究費の寄付)のほか、**技術事業化教育**などの各種支援を行う。

■ オール九州での大学のエコシステム構築



九州・大学発ベンチャー振興会議メンバー

大学

九州大学
九州工業大学
佐賀大学
長崎大学
熊本大学
大分大学
宮崎大学
鹿児島大学
琉球大学
福岡大学
福岡工業大学
九州産業大学
北九州市立大学

経済団体

九州経済連合会
九州商工会議所
九州経済同友会
九州経営者協会
九州経済調査会
九州オープンイノベーションセンター

経済界

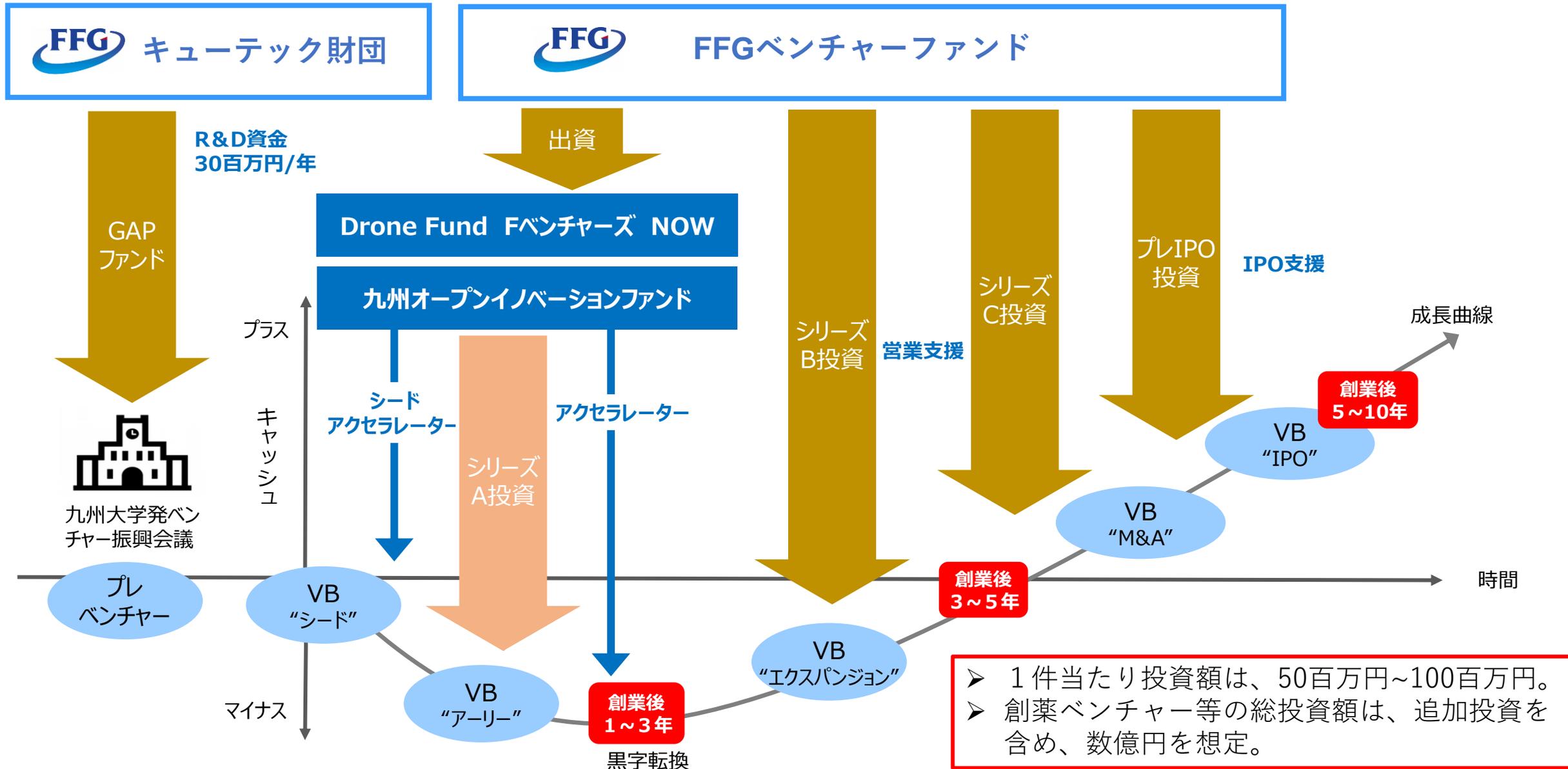
トヨタ九州
安川電機
TOTO
西部技研
ピーエムティー
総合メディカルHD
Chaintope
ワイビエム
大坪GSI
・福岡銀行・第一生命保険
・西日本シティ銀行
・佐賀銀行・十八親和銀行
・肥後銀行・大分銀行
・宮崎銀行・鹿児島銀行
・琉球銀行・沖縄銀行

事務局

FFGベンチャービジネスパートナーズ

九州オープンイノベーションセンター
九州経済連合会

FFGベンチャーファンドの特徴



FFGベンチャービジネスパートナーズの投資先概要

■九州を中心に、幅広い領域に対して積極的に投資を行っており、累計投資先は80社以上。

九州発スタートアップ



ディープテック分野への投資事例

株式会社QPS研究所

会社概要

- 代表者：大西俊輔
- 設立：2005年6月
- 本社：福岡市中央区



事業概要

- 九州大学で20年以上研究されてきた人工衛星技術を承継し、地場企業群とともに衛星の開発・製造に取り組んできたベンチャー企業。
- 今回新たに開発した**革新的なレーダーアンテナ**により、世界初の小型レーダー衛星の開発に目処をつけ、**天候に左右されず夜間でも**地球上のあらゆる場所を短時間で撮影可能とすることで、リアルタイム・グーグルマップの実現を目指す。
- 八坂九大名誉教授の技術を、若い大西社長がリーダーシップを取り事業化、COOの市来取締役がサポートするというチーム体制。
- **産業革新機構と連携し、合計9社から23.5億円の調達に成功。**
- FFGグループで衛星を製造する地場企業の支援および新たな提携企業の紹介等を実施し地域活性化を図る。

FFGグループ
銀行等

資金支援
連携企業紹介

九州大学
九州工業大学
等

衛星製造を担う
九州の地場企業
クラスター

連携
連携

QPS研究所

100キロ以下の
レーダー衛星

FVP
VC

出資
経営サポート

九州に宇宙産業を根付かせる！ <iQPSを支えるクラスター>

QPS創業メンバーがQPS創業前の2003年より九州を行脚し、地場企業を育ててきた。現在では一つのクラスターを形成。一社はJAXAのロケットの相乗り採用される衛星を打ち上げるほどまでに成長。

UNISEC、東京大学(ほどよし)、九州大学(QSAT-EOS)、千葉大学の衛星の通信システム、レーダーシステムを開発、納入。全国でも少ない衛星専門の通信機器開発スペシャリストに。

産業界

その後、東北大学との共同研究でISS(国際宇宙ステーション)からの放出される衛星に選定された薄膜展開式軌道離脱装置搭載衛星FREEDOMを開発。2016年12月9日、H-2Bロケットに搭載されたISS補給機「こうのとり」によってISSに輸送。

九州も宇宙産業に参入する地場企業を発掘したが、南九州の地場企業はその後鹿児島大学の衛星開発を中心に活動を行うこととなり、年に一度の九州小型人工衛星の会(QPS研究所が幹事)で情報交換をする程度の関係でもあり、あえて上記には含めず。

10

ディープレック分野への投資事例

株式会社EVモーターズ・ジャパン

会社名	株式会社EVモーターズ・ジャパン EV Motors Japan Co.,Ltd
創立日	2019年4月1日
所在地	[本社/ショールーム] 福岡県北九州市若松区白山1-18-7 [西日本営業部] 福岡市博多区博多駅東1-1-33 はかた近代ビル7F [東日本営業部] 東京都千代田区紀尾井町3-29 第2山本ビル5F [関西営業部] 大阪市北区天神橋1丁目6番18号 豊和第二ビル3階
役員	代表取締役社長 佐藤裕之 取締役副社長 角英信 取締役 余達太(北京科技大学) 取締役 林隆介(株式会社環境エネルギー投資) 取締役 山口泰久(株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ)



事業概要

- 最先端のバッテリーマネジメント技術により、EVバスの**200km以上の航続距離を実現**。北九州工場の建設により我が国唯一の**国産商用EV専門メーカー**を目指す。
- 特許・技術戦略**に秀でており、EV先進地である中国で商用EV向けバッテリーマネジメントシステムを提供してきた。
- 今後は、国産蓄電池の搭載も視野に。



ディープテック分野への投資事例



XTURISMO



**NASDAQへ
SPAC上場!**



Shared Computing



イノベーションに関する 時代背景と世界のトレンド

イノベーションの時代背景・トレンド

2005年頃から
イノベーションの**パラダイムシフト**が！

機械システム思考→**デザイン思考**
BMC/VPCやリーンスタートアップの普及
顧客志向型ビジネス開発の手法が発展

アクセラレーター（教育×投資）の勃興
オープンイノベーションの進展

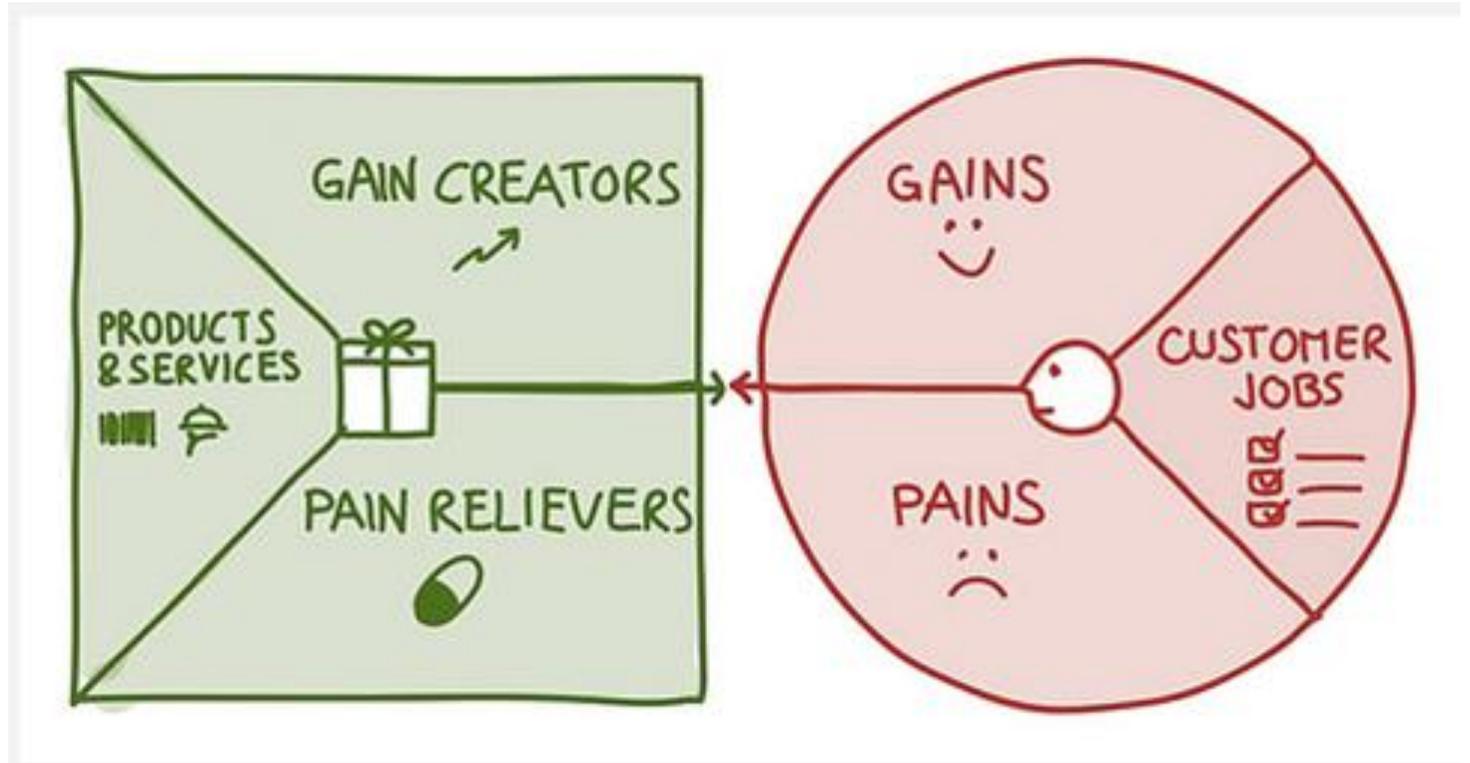
2020年コロナ禍で**Dxが一気に進展**
既存企業が**ビジネストランスフォーメーション**に着手
エフェクチュエーション理論の登場

BMC・VPCによるビジネスモデルの分析

- ローザンヌ大学ピニユール教授は、教え子のオスターワルダー氏と、「ビジネスモデルキャンバス」を作った人物として世界的に著名。「ビジネスモデルジェネレーション」(2012)、「バリュー・プロポジション・キャンバス」(2015)の著者。
- ビジネスモデルを分析するツールとして、ビジネスの全体像を俯瞰でき、ビジネスに必要な項目の把握と整合性の確認がしやすいことから、世界中で爆発的に普及した。

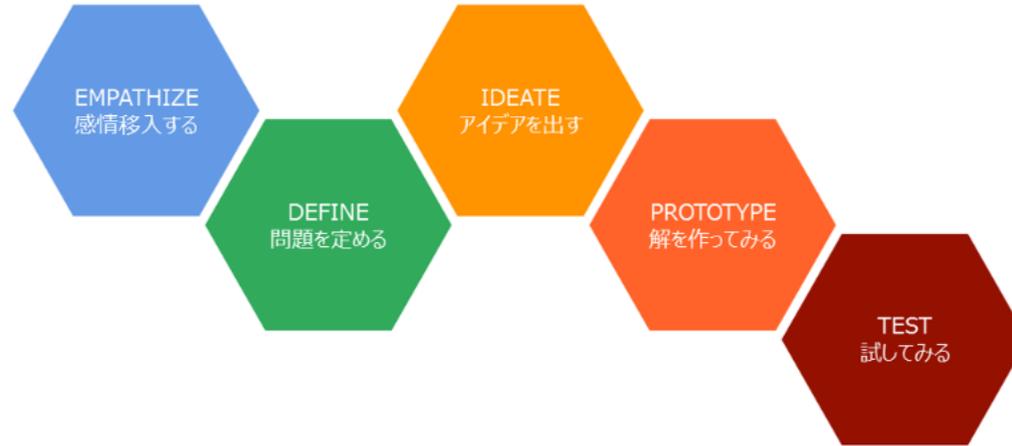


バリュープロポジション・キャンバス

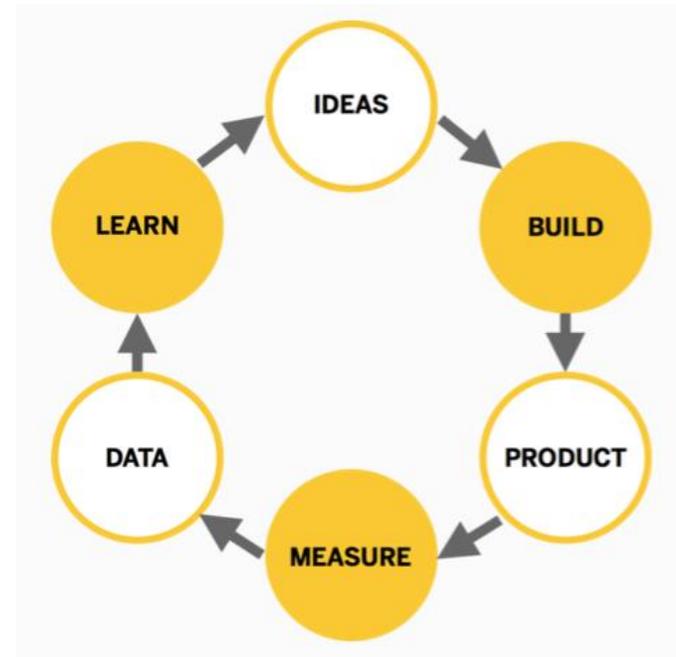


課題解決型（顧客志向）の技術開発・ビジネス開発

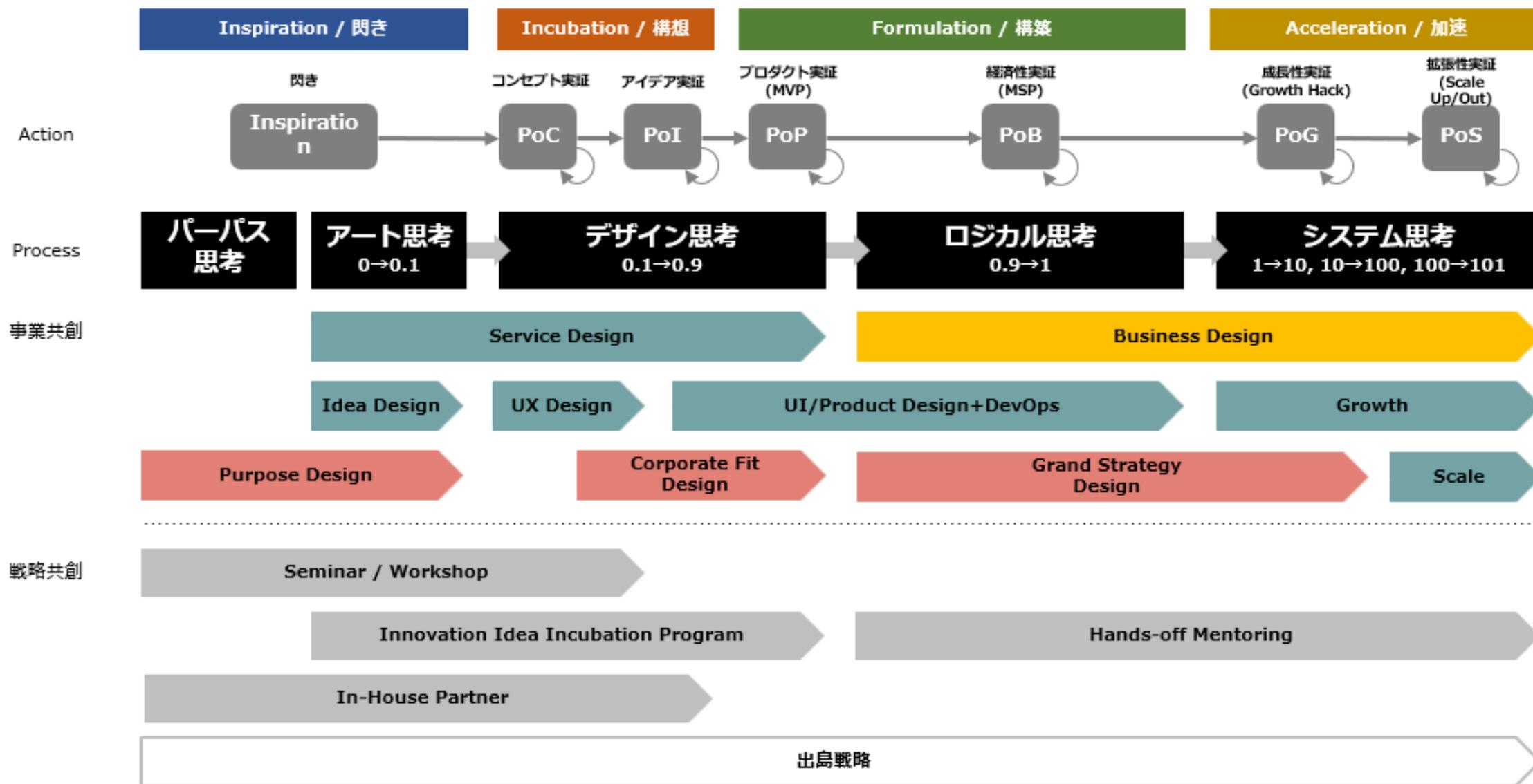
- ◆ 「デザイン思考」の登場。
- ◆ **顧客起点**で、問題を発見し、問題を解決する手法。
- ◆ 機械システム思考から**デザイン思考**への転換。
- ◆ Change By Design (2009)
- ◆ The Lean Startup (2011)



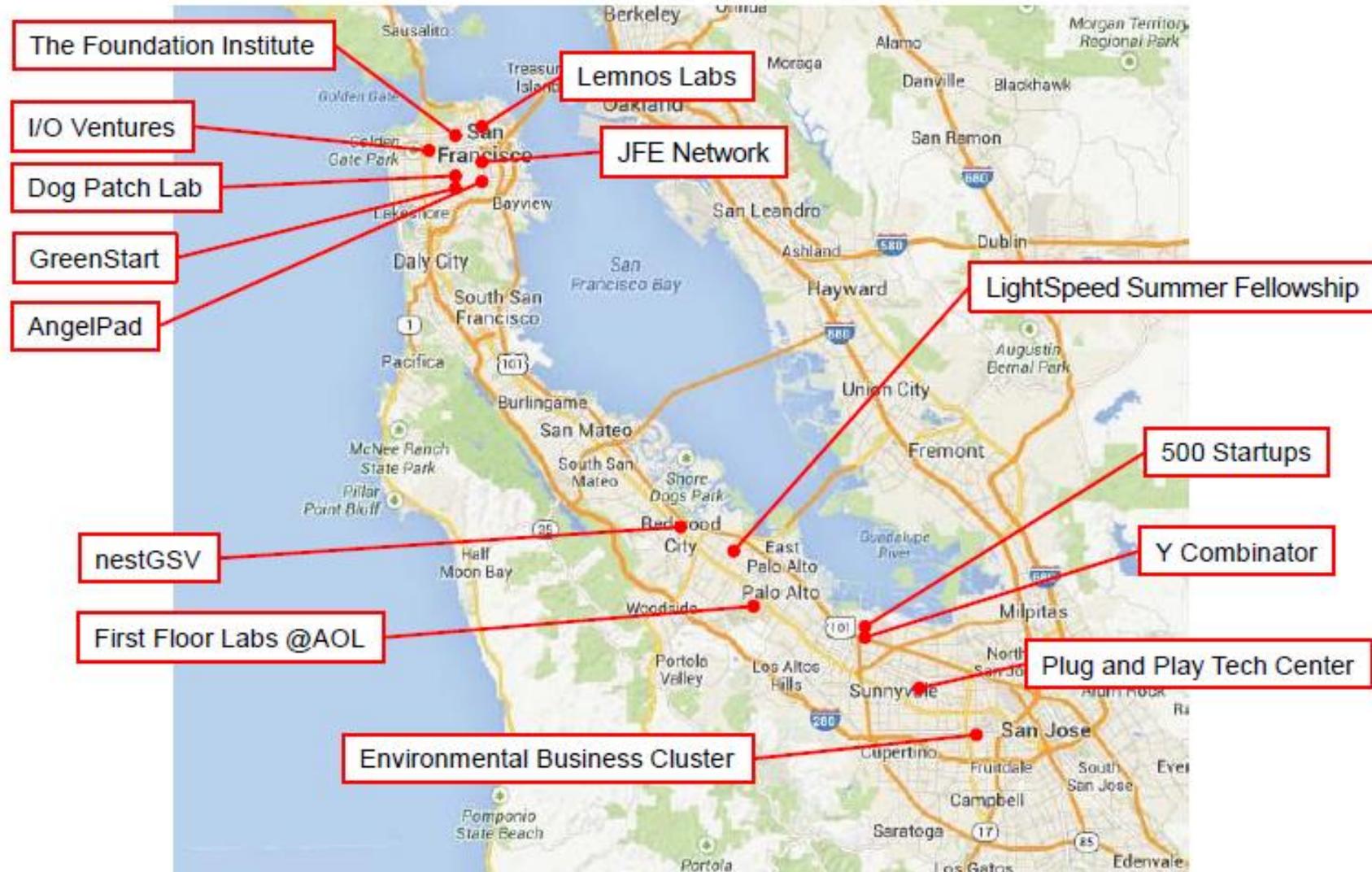
STEP① 共感	STEP② 問題定義	STEP③ アイデア創出	STEP④ プロトタイプング	STEP⑤ 検証
テーマ設定 参与観察	課題定義	アイデア & コンセプト 創造	試作 (高速&反復)	ユーザー テスト (リアル)
<ul style="list-style-type: none"> • 実在のユーザーを見付ける • ユーザーを観察 • 判断せず、ありのままを受け入れ可視化 	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーへの深い理解を行う • ユーザーが気付いていない「本当の目的」「本当の課題」を把握 • 「ユーザー自身も気づいていない本当に実現したい本当の目的」を定義 	<ul style="list-style-type: none"> • 定義された目的の達成へ向けたアイデアを創出 • 質よりも量を重視 	<ul style="list-style-type: none"> • アイデアの価値を確認するため、高速でプロトタイプを作成 • 必要最低限の機能を備えたもの • 「学びの促し」と「価値の確認」が目的 • 「早く安く失敗」により手遅れを防ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> • プロトタイプをリアルマーケットへ投入し、フィードバックを受け改善 • 方向転換をすることをいとわない



最新の統合型イノベーション・ビジネス開発



シリコンバレーでは、アクセラレーターが急速に普及



海外のアクセラレーター

Y Combinator

- 応募によって選ばれた起業家に対し、3カ月間の支援を実施（年2回）。
- 少額の資金提供、専門スタッフによる経営アドバイス、投資家や経営人材、プログラムOBとのネットワーク構築、起業家・投資家・連携企業の集まるイベントやミーティングなどを実施。
- 2005年から開始し、1,900社以上を支援、支援先の評価額の総額は1,000億ドル以上。



Techstars

- 応募によって選ばれた起業家に対し、3カ月間の支援を実施。
- 専門スタッフによる経営アドバイス、投資家や経営人材のネットワーク構築、起業家・投資家・連携企業の集まるイベントやミーティングなどを実施。
- 2007年から開始し、約1,600社を支援、支援先の資金調達額は62億ドル以上。



500 Startups

- 応募によって選ばれた起業家に対し、4カ月間の支援を実施。
- オフィス、専門スタッフによる経営アドバイス、投資家や経営人材のネットワーク構築、起業家・投資家・連携企業の集まるイベントやミーティングなどを実施。
- 2010年から開始し、2200社以上を支援。VC投資も実施。神戸市と共同でプログラムを実施。



Plug and Play

- 応募によって選ばれた起業家に対し、3カ月間の支援を実施。
- オフィス、専門スタッフによる経営アドバイス、投資家や経営人材のネットワーク構築、起業家・投資家・連携企業の集まるイベントやミーティングなどを実施。
- 2006年から開始し、2,000社以上を支援、うち750社以上に投資し、投資先の資金調達額は70億ドル以上。



stripe

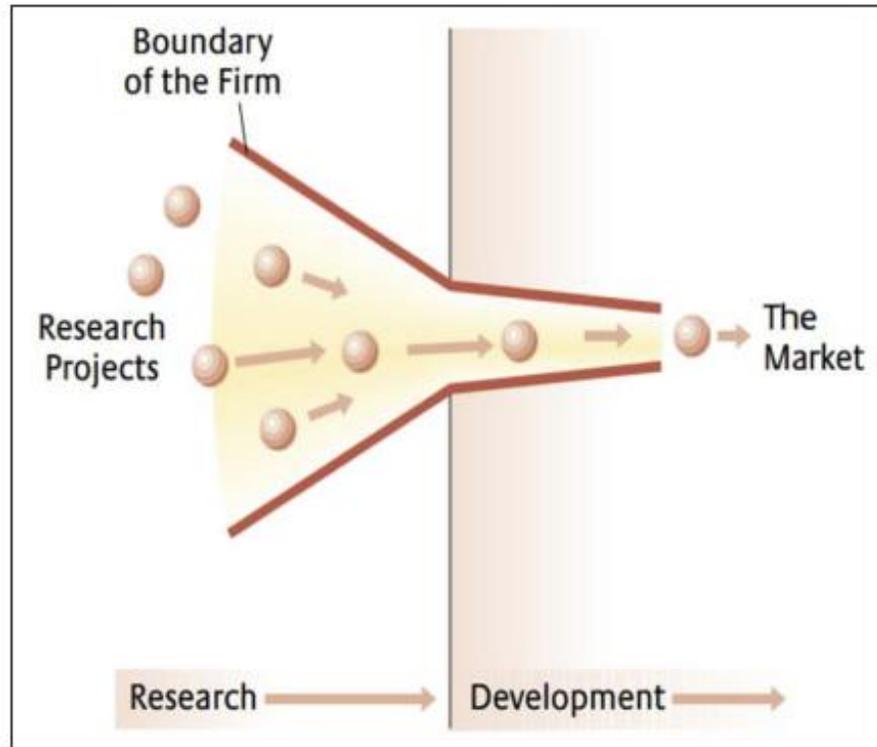


オープンイノベーション戦略の普及

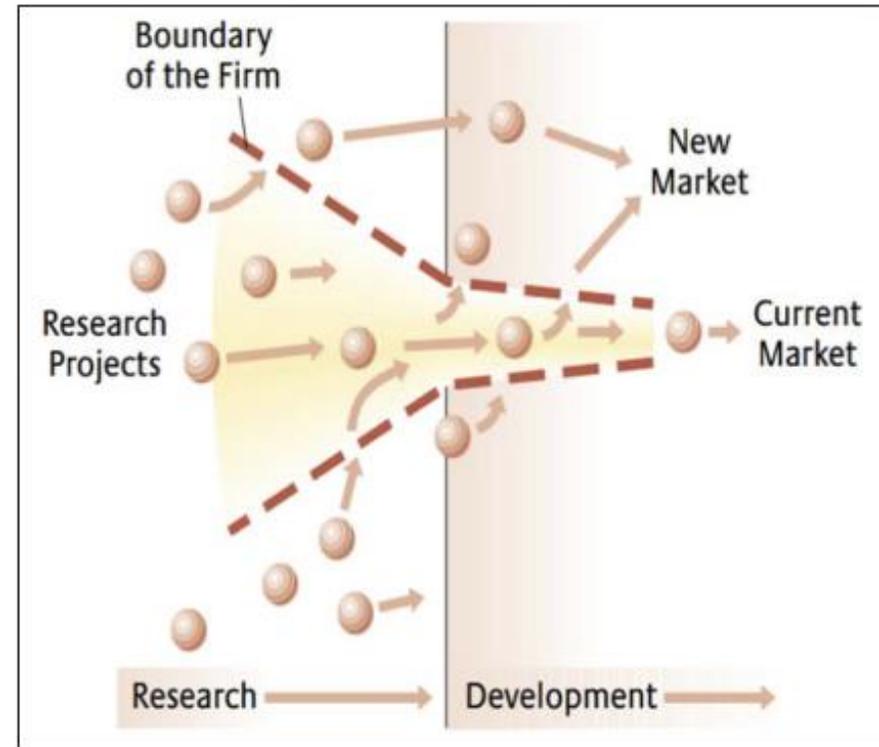
定義

オープンイノベーションとは、

組織内部のイノベーションを促進するために、意図的かつ積極的に内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流出入を活用し、その結果組織内で創出したイノベーションを組織外に展開する市場機会を増やすことである(Henry W. Chesbrough, 著書『Open Innovation』(2003年))



クローズドイノベーション



オープンイノベーション

オープンイノベーションの共通課題

各企業は、しがらみを超えられない課題を多く抱えていて、
リーンスタートアップやアジャイルの開発手法を用いる事ができない。



- ① ビジネスコンプライアンス
- ② 情報漏えいリスク
- ③ レピュテーションリスク
- ④ 働き方
- ⑤ イントラ以外の外部交流ツール
- ⑥ 堅牢な仕組み
- ⑦ デザインや企業名使用
- ⑧ 慎重な法務



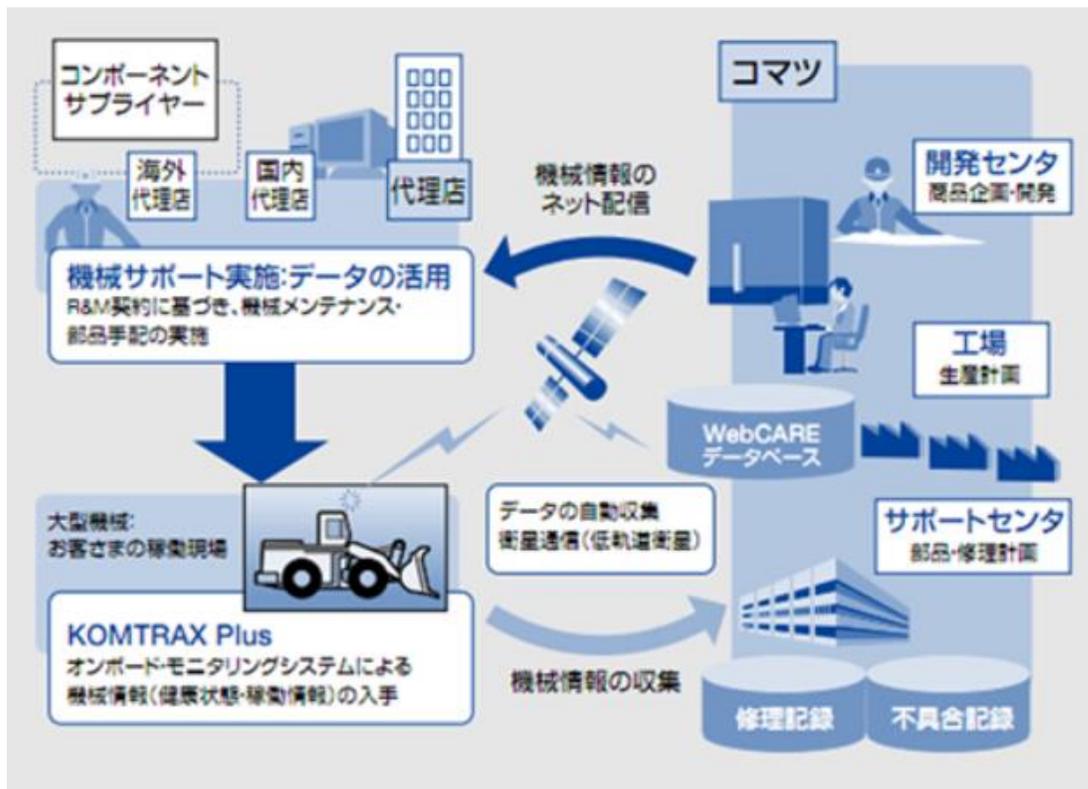
- 誰かプロジェクトを立ち上げてくれないか？
- オープン・イノベーションによりリソースを集めたい（もちろん自分もリソースは出せるのだが…）。
- ある程度の売上を立てたい！



出島方式
ベンチャー企業活用方式

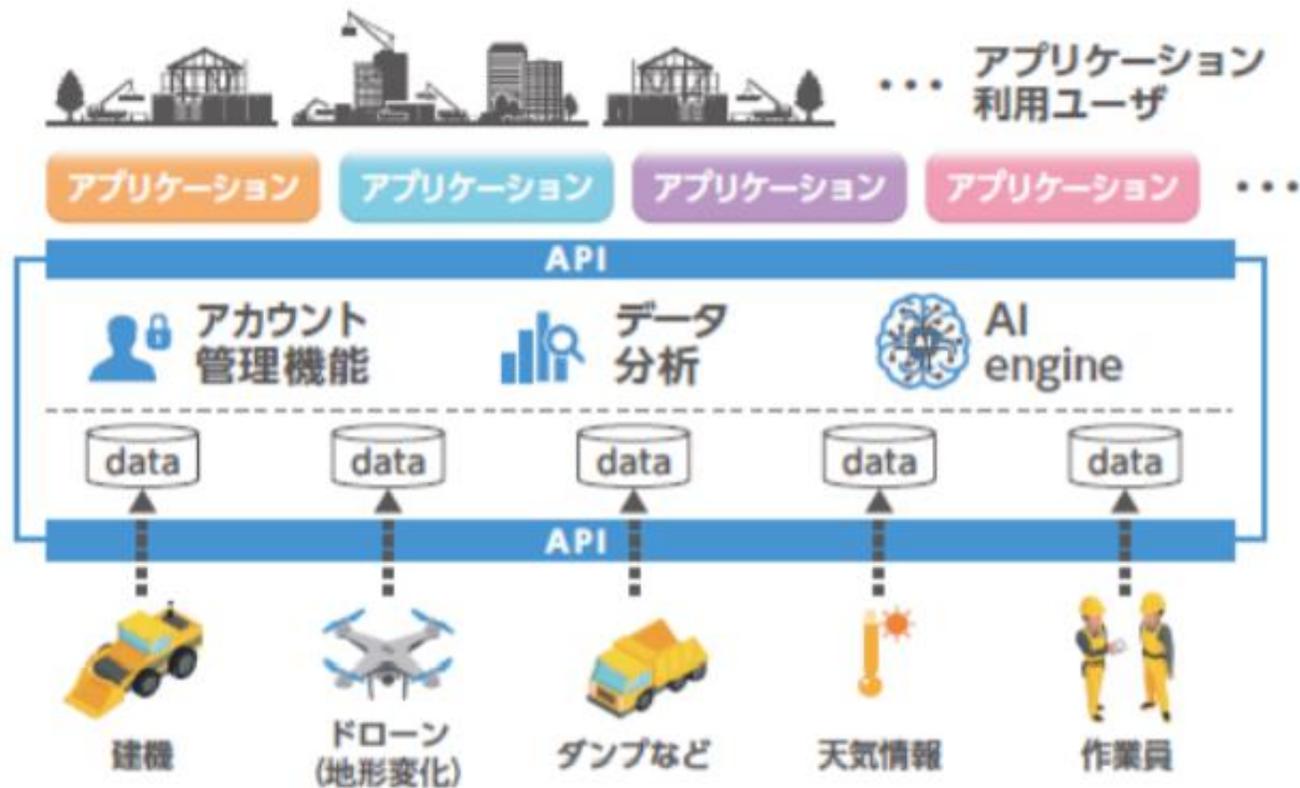
コマツのオープンイノベーション戦略

KOMTRAX



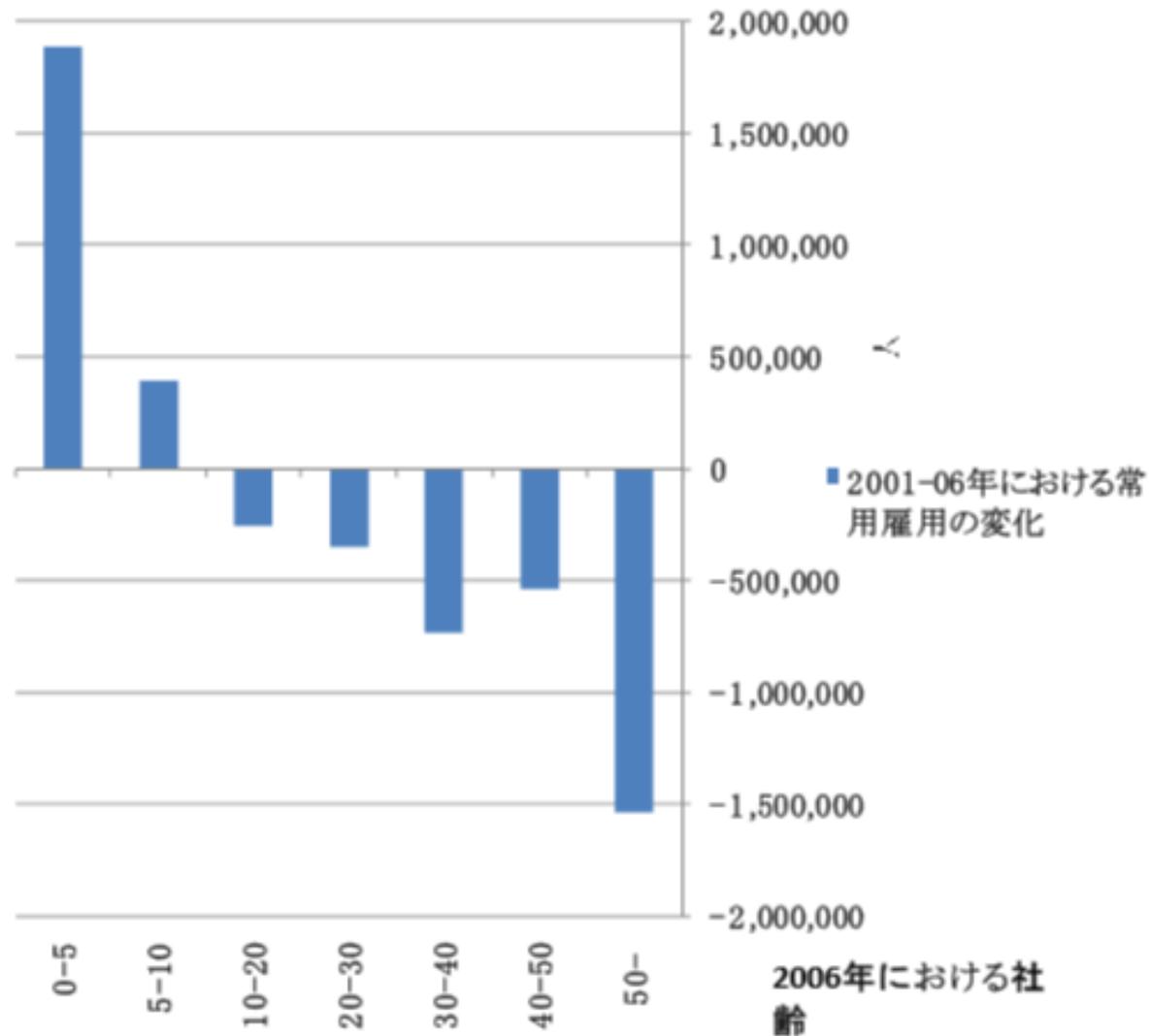
2015年よりスマートコンストラクションを推進。

Cloud IoT Platform LANDLOG



KOMATSU ^{NTT} docomo SAP OPTiM®

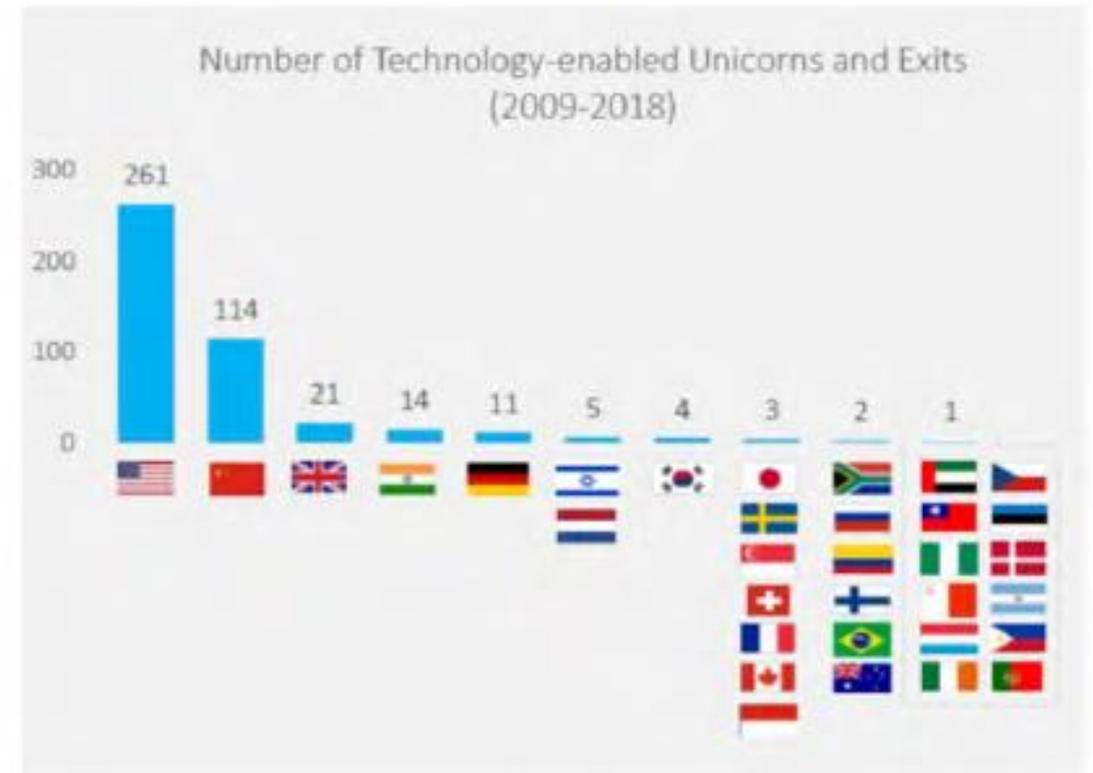
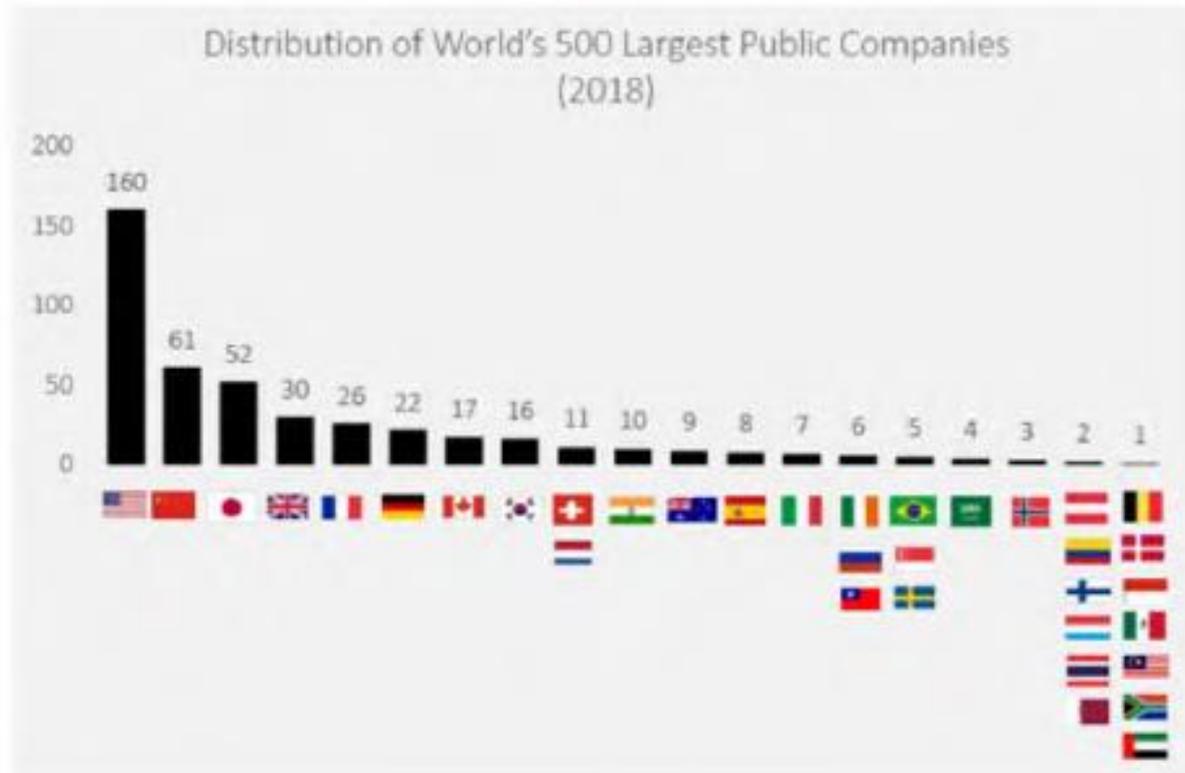
企業の社齢と雇用の相関関係



スタートアップが、雇用を生み出す原動力となっている。

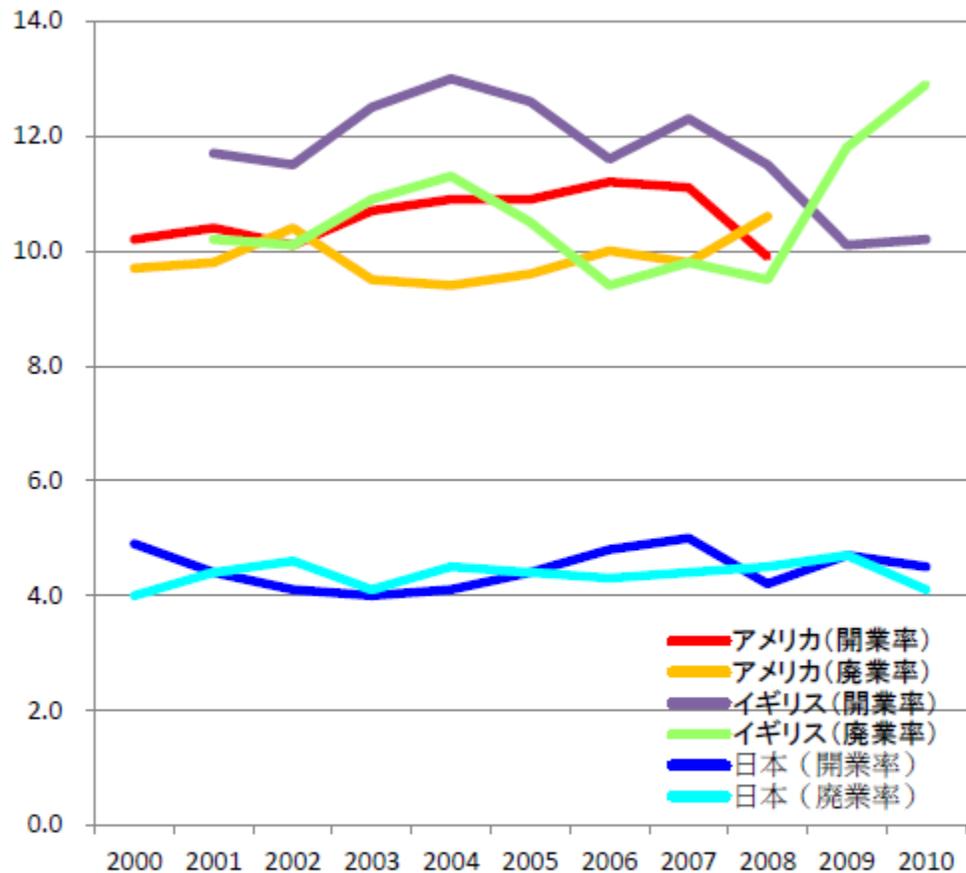
急成長するスタートアップの不足

大企業の所在は世界 3 位だが、ユニコーン創出は低迷。



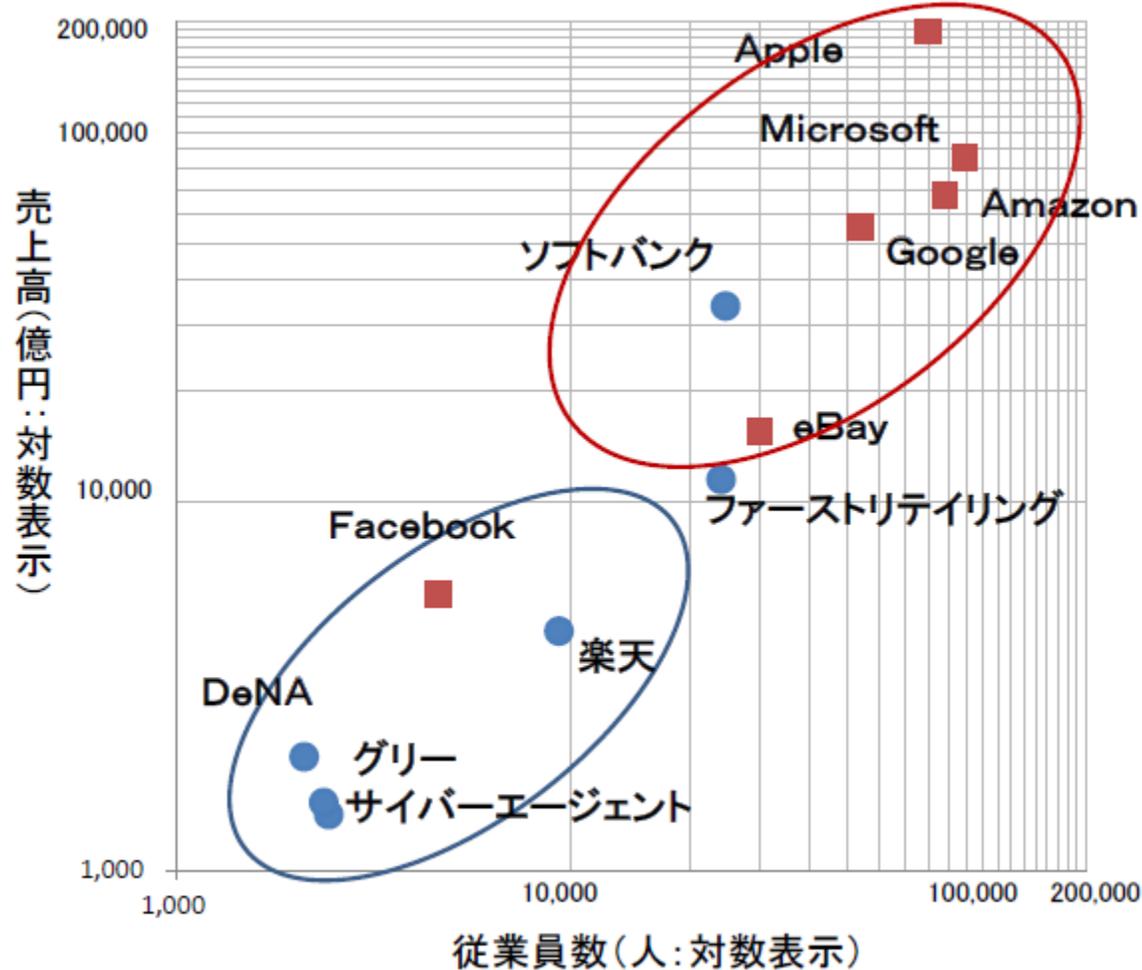
スタートアップが雇用の担い手となっていない。

日本の開業率・廃業率は欧米と比べて低い。



(出所) 中小企業白書2012年版

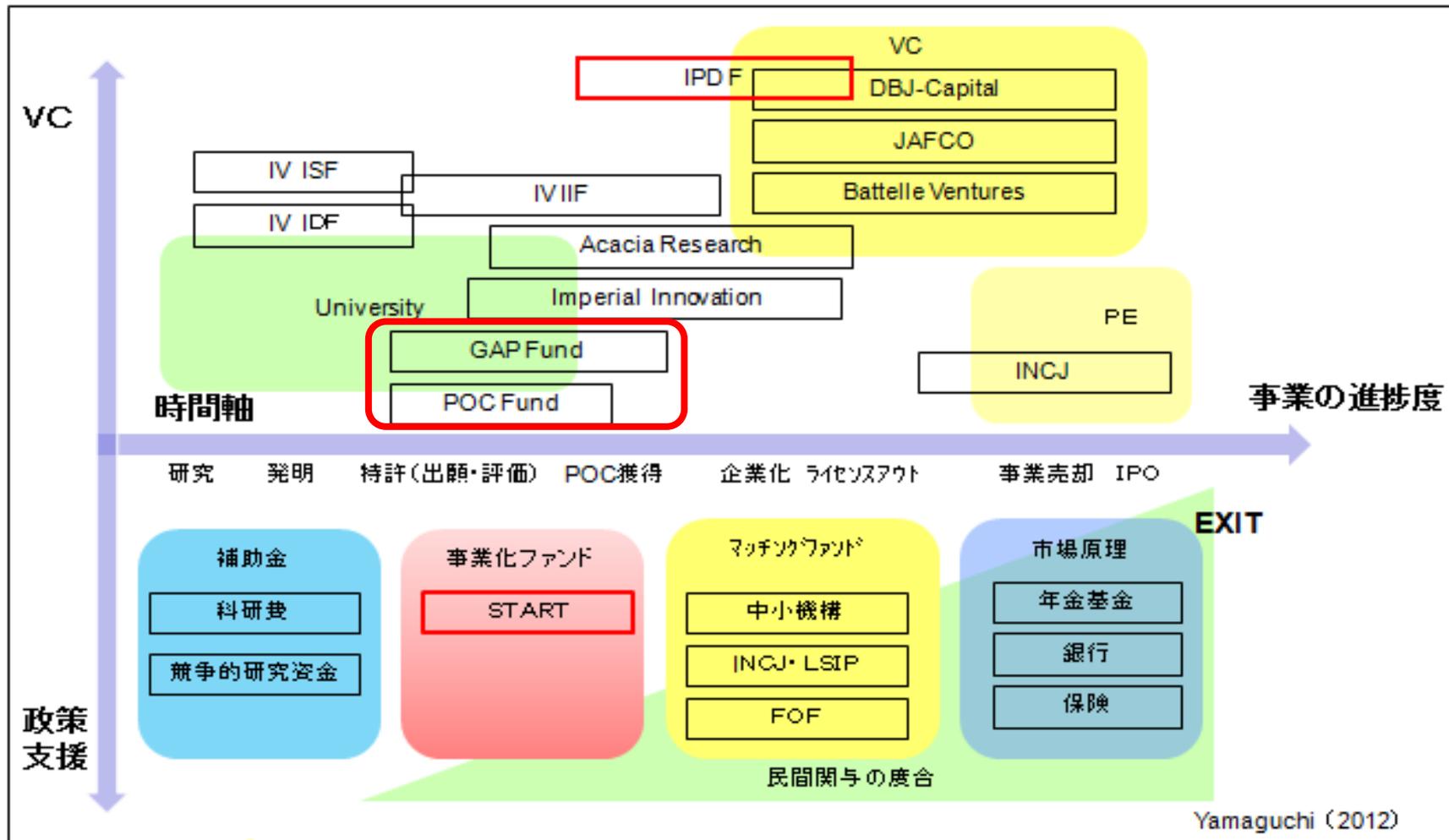
日本では大きく成長するベンチャーが出ていない。



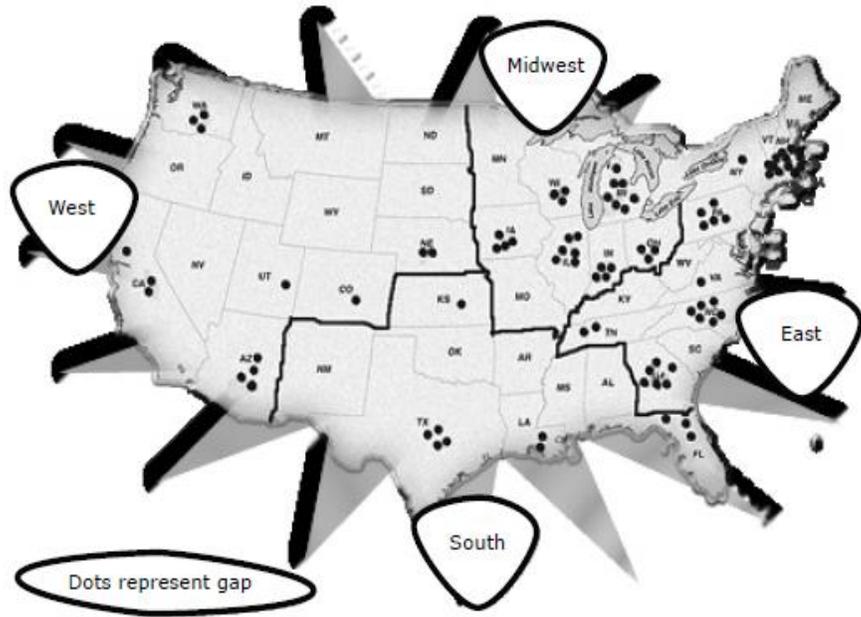
(出所) 直近の入手可能な決算資料等より経済産業省において計算
(1\$ = 102.52円)

プレベンチャーへの資金支援の必要性

- 官による補助金や出資が、事業化をブリッジし、民間VCの出資の呼び水となる。
- VCの出口戦略が、IPO, M&A等からライセンス等へ多様化している。



米国では、ほとんどの大学がGAPファンドを保有



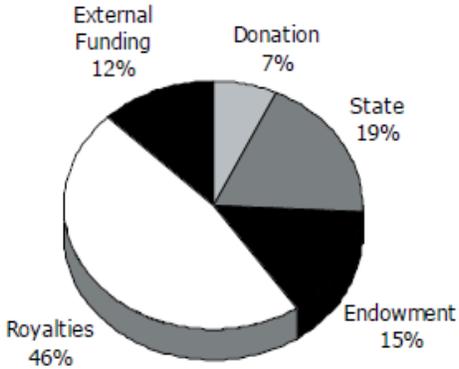
Midwest (14)

- Case Western University
- University of Chicago
- University of Illinois
- Indiana University
- Iowa State University
- University of Michigan
- Michigan State University*
- Michigan Technology University
- MUCI Fund (State of Michigan)
- Northwestern
- Purdue University
- Washington University-St. Louis
- Wayne State University
- University of Wisconsin-Madison

East (18)

- Academy Funds
- Beth Israel Deaconess
- Boston University
- Columbia University
- Cornell Institute
- Emory University
- University of Georgia
- Georgia Tech
- Life Science Greenhouse of Central PA
- University of Massachusetts
- Massachusetts Institute of Technology
- New York University
- University of North Carolina
- Penn State University
- University of Pittsburgh
- University of Pennsylvania*
- Vanderbilt
- Virginia Tech

Percentage Total of Each Initial Funding Source



South (7)

- University of Florida
- Florida State University
- Manhattan Holdings, LLC (State of Kansas)
- Tulane
- Texas A&M University
- University of Texas-Austin
- University of Texas Medical

West (11)

- University of Arizona
- Arizona State University
- University of California System
- California Technology Institute
- Colorado University
- University of Nebraska
- Stanford University
- University of Southern California*
- University of Utah
- University of Washington RF
- RCT BioVentures

文科省・JSTによるSTART事業の進展

【科学技術イノベーションによる日本再生のための日本型モデルの構築（新「明日に架ける橋」）】
 大学等の革新的技術の事業化による新マーケット創出
大学発新産業創出拠点プロジェクト

平成24年度予定額：1,300百万円
 （新規）

現状認識・課題

- 産業構造の代謝停滞(企業の廃業率>開業率)
- 大学等の優れた基礎研究成果の死蔵
- リスクを取らない文化と起業精神の停滞

研究の「死の谷」
 世界トップクラスの日本の基礎研究
 リスクマネー滞留

【企業の開業・廃業率の推移(企業数ベース)】

年	開業率 (%)	廃業率 (%)
75	5.9	5.9
78	3.8	3.8
81	4.3	4.0
85	4.0	3.5
89	3.5	3.2
93	3.5	3.1
97	3.5	3.1
01	3.5	3.1
04	3.5	3.1

出展：事業所・企業統計調査(総務省)

【国内投資における地域別投資状況】

新規投資先が東京に集中し、地域に新たな産業集積地が出てにくい状況

新規投資の約5割が東京に集中

東京	49.5%	新規投資額 13.2%
東京以外	37.3%	新規投資額 13.2%
その他	13.2%	新規投資額 13.2%

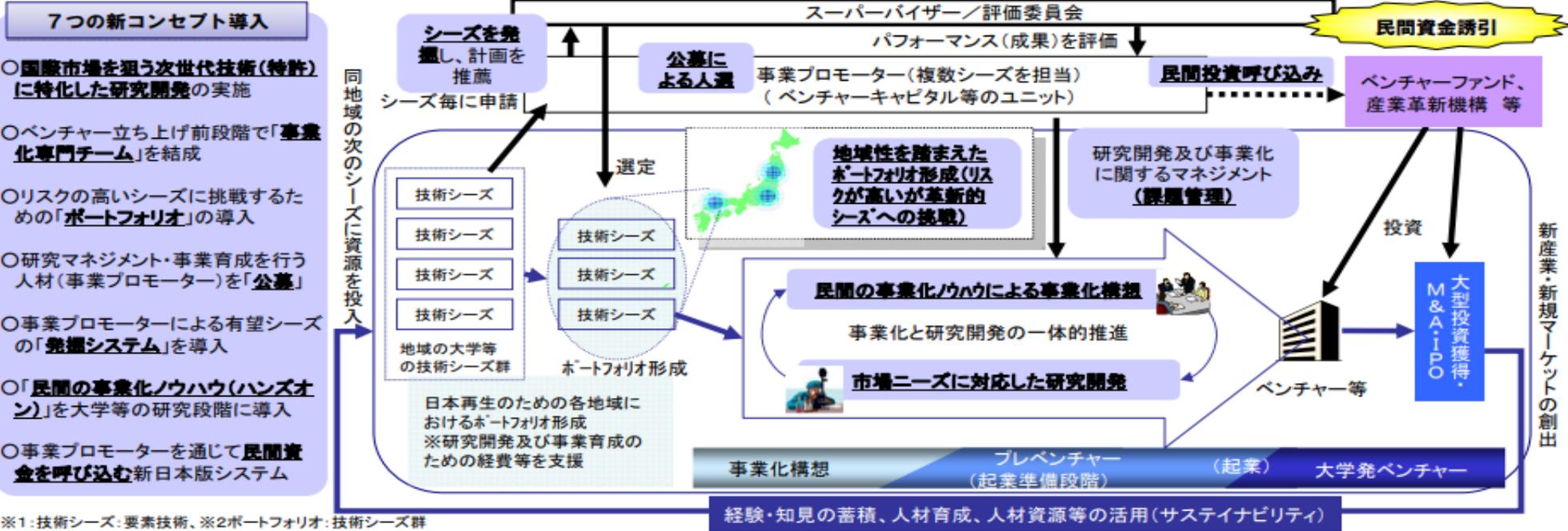
出展：平成21年度ベンチャーキャピタル等投資動向調査

政策

○「日本再生のための戦略に向けて」(平成23年8月5日閣議決定)
 新産業の芽を育てるため、産官学連携や起業・創業への支援、ベンチャー起業の成長促進に向けた環境整備を図る。

民間の事業化ノウハウを活用した大学の次世代技術の研究開発による新産業・新規市場の開拓と日本経済の復興・再生

発明(特許)の段階から、大学の革新的技術の研究開発支援と、チームによる事業育成を一体的に実施し、新産業・新規市場のための**大学発日本型イノベーションモデル**を構築(経験・知見の蓄積、人材育成等による持続的なイノベーションモデルを構築)



※1:技術シーズ:要素技術、※2ポートフォリオ:技術シーズ群

文科省・JSTによるSTART事業の進展

JST 大学発新産業創出プログラム (START)

令和5年度予算額 (案) 2,039百万円
 (前年度予算額 2,050百万円)
 ※運営費交付金中の推計額



【背景・課題】

- ▶ **経済成長や社会課題解決に向けて、イノベーションの担い手である大学等発スタートアップの活躍は必要不可欠。**また、**急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神 (アントレプレナーシップ) を備えた人材の育成**を我が国全体で進めていくことが重要。
- ▶ **令和4年11月に「スタートアップ育成5か年計画」が決定**されるなど、日本経済成長や社会課題を解決する鍵としてスタートアップの育成が政府の重要課題となっている。

【目的・概要】

- ▶ 令和2年7月に選定されたスタートアップ・エコシステム拠点都市において、**大学・自治体・産業界のリソースを結集し、大学発スタートアップの創出やその基盤となる人材育成に取り組む、エコシステムの形成を推進する。**
- ▶ 起業前段階から**公的資金と民間の事業化ノウハウ等を組み合わせることにより、社会課題解決等に繋がる新規性と社会的インパクトを有する大学等発スタートアップを創出する。**

令和4年度第2次補正予算額 99,775百万円
 ※大学発スタートアップ創出の抜本的強化のため基金及び起業家層の拡大に向けたアントレ教育の高校生等への拡大のための予算として措置

【経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月閣議決定)抄】

起業拠点の整備を含めて**大学等も存分に活用しつつ、知的財産の保護・活用の推進、規制・制度改革等を通じて世界に伍するスタートアップエコシステムを作り上げ、大規模なスタートアップの創出に取り組む。**

【新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月閣議決定)抄】

スタートアップの育成は、日本経済のダイナミズムと成長を促し、社会的課題を解決する鍵である。このため、以下の項目等について、実行のための司令塔機能を明確化し、新しい資本主義実現会議に検討の場を設け、**5年10倍増を視野に5か年計画を本年末に策定**する。
 産業界の協力を得て、起業家を教育現場に派遣したとき、**初等中等教育等における起業家教育を推進**する。

大学・エコシステム推進型

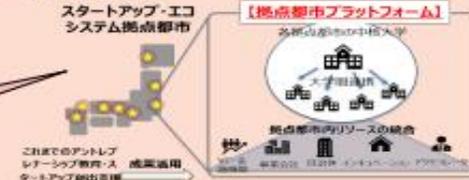
【スタートアップ・エコシステム形成支援】

- **スタートアップ・エコシステム拠点都市 (8都市) において自治体・産業界と連携し、大学等における実践的なアントレプレナーシップ教育やギャップファンドを含めた一体的な起業支援体制の構築**による起業支援を実施。
- 拠点都市に参画する**全大学でオンラインを含むアントレプレナーシップ教育を実施**するなど、我が国全体のアントレプレナーシップを醸成。

<拠点都市の支援>

- 支援額：1億円程度/年
 支援期間：5年度

アントレプレナーシップ教育とスタートアップ創出を一体的に支援



- 令和4年度第2次補正予算において、上記拠点に以下を追加措置
- 起業家層の拡大に向けたアントレ教育の高校生等への拡大：10億円 (8拠点都市を支援)

【大学推進型】

- ギャップファンド及び起業支援体制を整備し、スタートアップ創出力を強化。
- 採択主幹機関：神戸大学、筑波大学、早稲田大学 支援期間：令和2～6年度 (5年度)

令和4年度第2次補正予算において、以下について基金を措置

- 大学発スタートアップ創出の抜本的強化：988億円 (事業実施期間：令和4年度～ (原則5年間))
 拠点都市や地域の中核大学等の技術シーズに対する国際展開を見据えたギャップファンドプログラムの創設及び地域の中核大学等のスタートアップ創出の体制整備

プロジェクト推進型



【ビジネスモデル検証支援】

- 研究者と事業化伴走者から構成されるチームにリーンスタートアップを基盤とするアントレプレナー教育の提供とビジネスモデル探索活動を支援。
- 支援額：8百万円程度/課題・年、8課題程度
 支援期間：1年度



【起業実証支援】

- 事業プロモーター (※) のマネジメントのもと、ポテンシャルの高い大学等の技術シーズに関して、**事業戦略・知財戦略等の構築と、市場や出口を見据えた事業化を目指した研究開発プロジェクトを推進。**
- 支援額：40百万円程度/課題・年、11課題程度
 支援期間：最長3年度



(※) 事業プロモーター：ベンチャーキャピタル (VC) 等の新事業育成に熟練した民間人材を事業プロモーターとして選定し、大学等における技術シーズの発掘と事業計画の策定及び事業育成に係る活動を支援。

スタートアップに関する 九州エリア10の特徴

九州エリアの特徴1 : J Startup Kyushu 33社選定

J-Startup
KYUSHU



九州エリアの特徴2：雇用創出を担うスタートアップ

雇用創出の担い手としてのスタートアップ

- ✓ 5年以内の開業により九州地域全体で6.4%の雇用効果
- ✓ 2012年→2016年の従業者総数の減少分より多い同期間の雇用

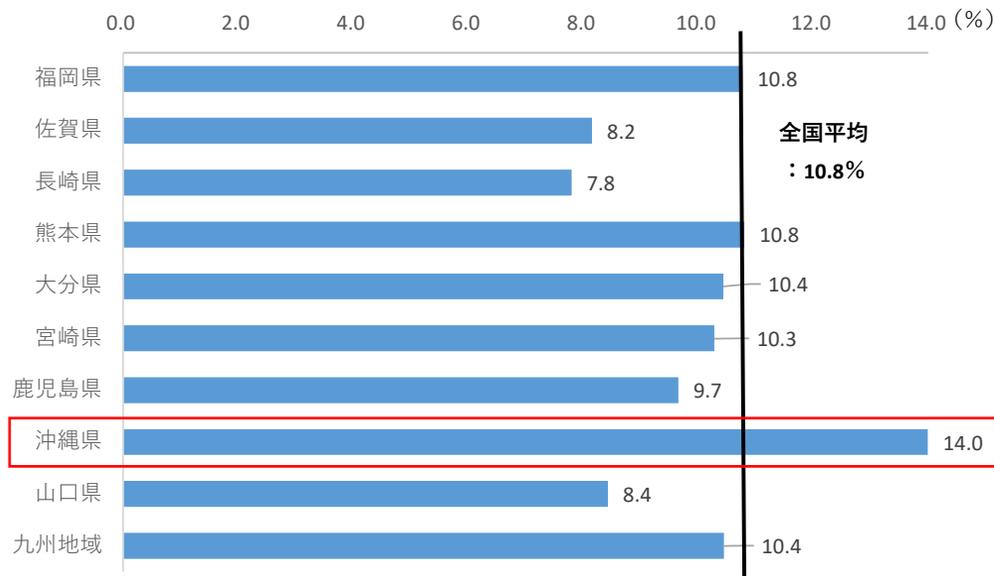
従業者数の推移（2012・2016年）と開業3年・5年以内企業による従業者の雇用、割合（2016年）

	従業者数（総数）			開業年別従業者数						開業3年	開業5年
	2012年	2016年	2016年－2012年	2012年開業	2013年開業	2014年開業	2015年開業	2016年開業	5年合計	以内（%）	以内（%）
福岡県	971,866	935,549	▲ 36,317	18,186	17,570	15,456	9,170	6,808	67,190	3.4	7.2
佐賀県	154,494	150,178	▲ 4,316	2,793	2,221	2,366	2,127	583	10,090	3.4	6.7
長崎県	259,128	242,928	▲ 16,200	3,720	3,009	2,263	2,100	792	11,884	2.1	4.9
熊本県	358,562	333,453	▲ 25,109	6,527	4,707	3,554	3,732	1,281	19,801	2.6	5.9
大分県	244,266	229,057	▲ 15,209	5,204	2,846	2,113	2,588	876	13,627	2.4	5.9
宮崎県	216,851	208,174	▲ 8,677	3,591	2,845	2,861	2,225	1,157	12,679	3.0	6.1
鹿児島県	321,763	302,780	▲ 18,983	4,728	4,314	3,831	2,489	1,550	16,912	2.6	5.6
沖縄県	234,513	247,246	12,733	6,882	5,047	4,001	4,156	1,639	21,725	4.0	8.8
山口県	266,487	245,358	▲ 21,129	4,069	2,811	2,342	2,236	1,204	12,662	2.4	5.2
九州地域	3,027,930	2,894,723	▲ 133,207	55,700	45,370	38,787	30,823	15,890	186,570	3.0	6.4
全国	26,316,116	25,168,730	▲ 1,147,386	518,051	443,421	390,288	306,940	152,178	1,810,878	3.4	7.2

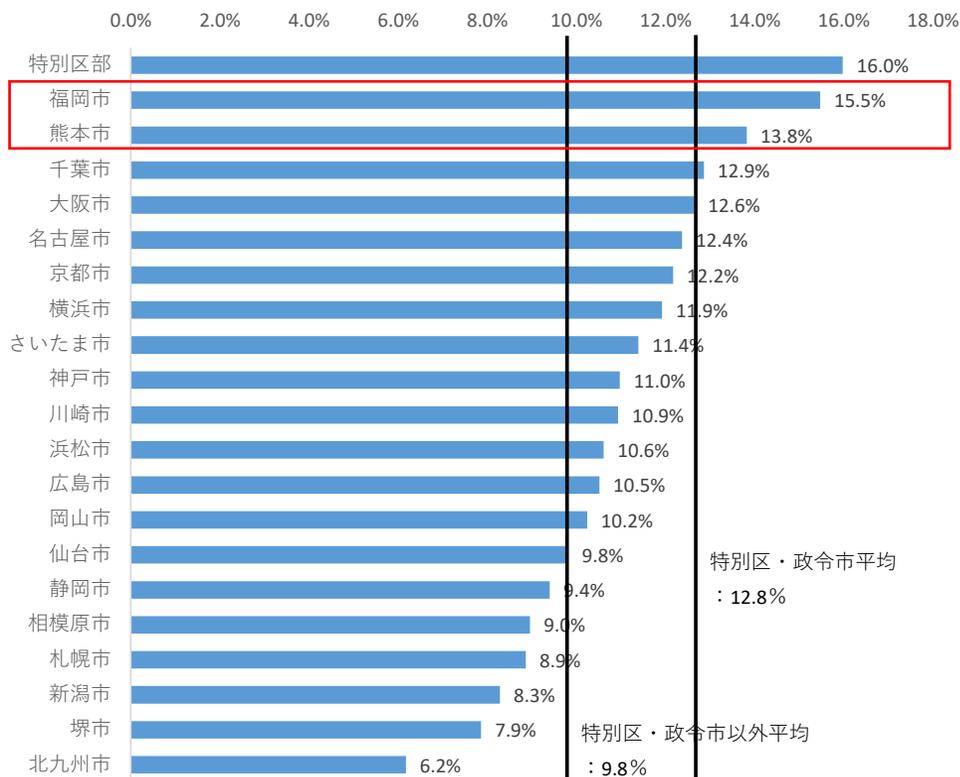
九州エリアの特徴3：元々起業マインドが高い土壌

- 九州地域全体では全国平均並み
- 沖縄県は、突出して起業意欲が高い
- 福岡市や熊本市は、起業意欲が全国平均を上回る
- 製造業のまち北九州市は、起業意欲が極めて乏しい

九州地域と各県の有業者に占める「起業意思」のある人の割合（2017年）

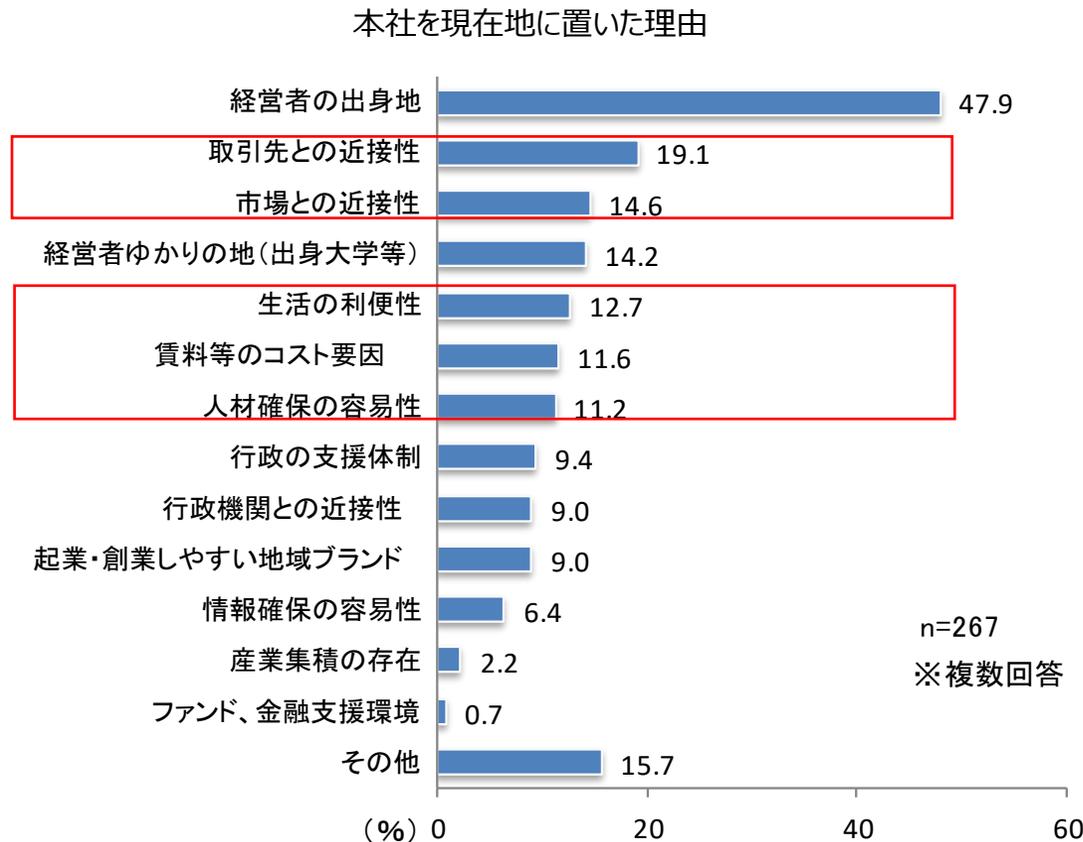


全国政令市の有業者に占める「起業意思」のある人の割合（2017年）



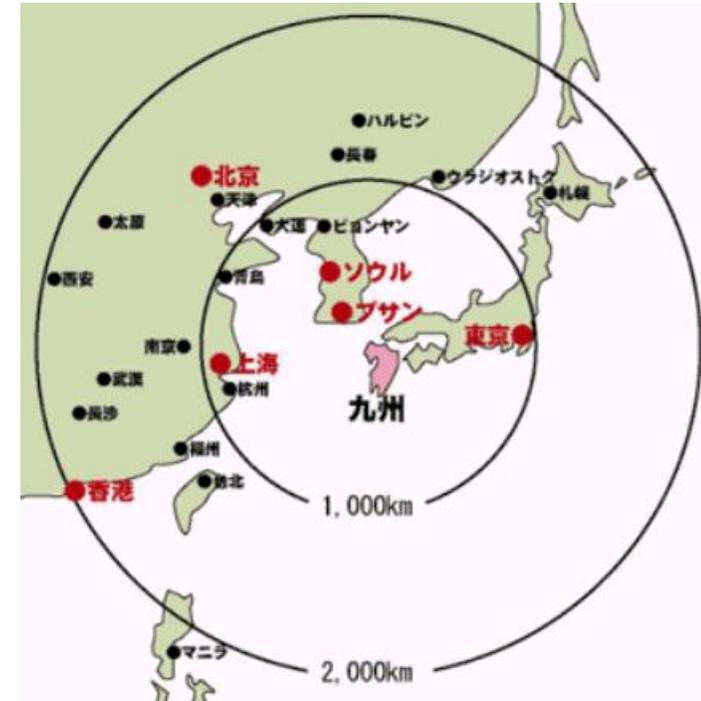
九州エリアの特徴4：地元出身者以外を引き付ける要素

- 起業場所を選ぶ理由は、「出身地」が第1位だが…
- 地縁以外の理由が挙がる
- 出身地でなくても起業場所として選択されるエリアへ



九州エリアの特徴5：アジアへの近接性

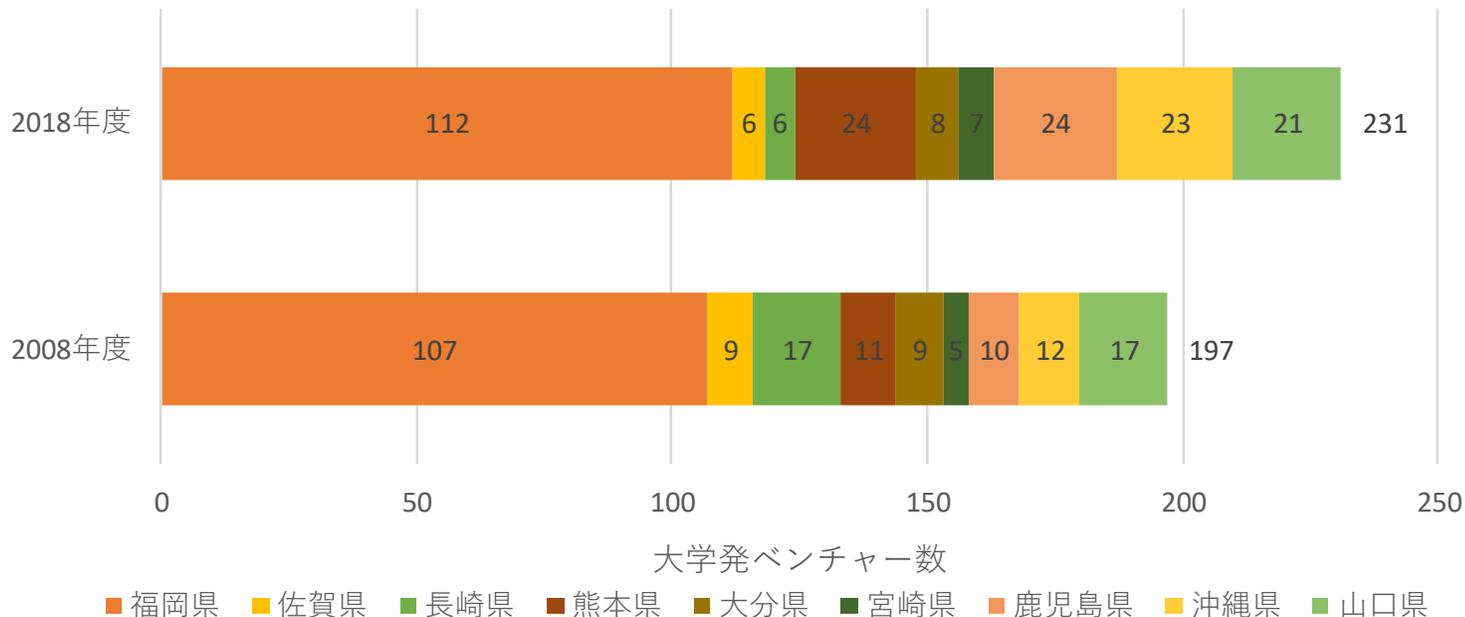
- アジアと地理的な近接性がある九州地域
ソウルまで1時間半、台北まで2時間半、香港まで3時間半
- アジアむけの製品・サービスを展開する時に拠点としやすい。福岡市訪日観光客300万人向けに製品・サービスを試行できる。
(韓国より150万人が来訪)
- 外国人留学生が2.38万人存在（全国シェア11.4%）
 - 日本経済大学（太宰府市）
 - 立命館アジア太平洋大学（別府市）
 - 九州大学（福岡市西区） など
- 外国人留学生が起業したベンチャー企業が海外市場を狙う
 - 立命館アジア太平洋大学、大分大学出身の外国人留学生が起業



九州エリアの特徴6：地域に立地する大学の役割

- 九州エリアの大学発スタートアップは、10年間で197→231に増加
 - 全国の10.1%を占める
- 資金調達額も増加。九州大は第3位（2018年）
 - (株) Kyuluxや(株) QPS研究所など、億単位の資金調達を進めるスタートアップもみられる

九州エリアの大学発ベンチャー数の推移



九州エリアの特徴6：地域に立地する大学の役割

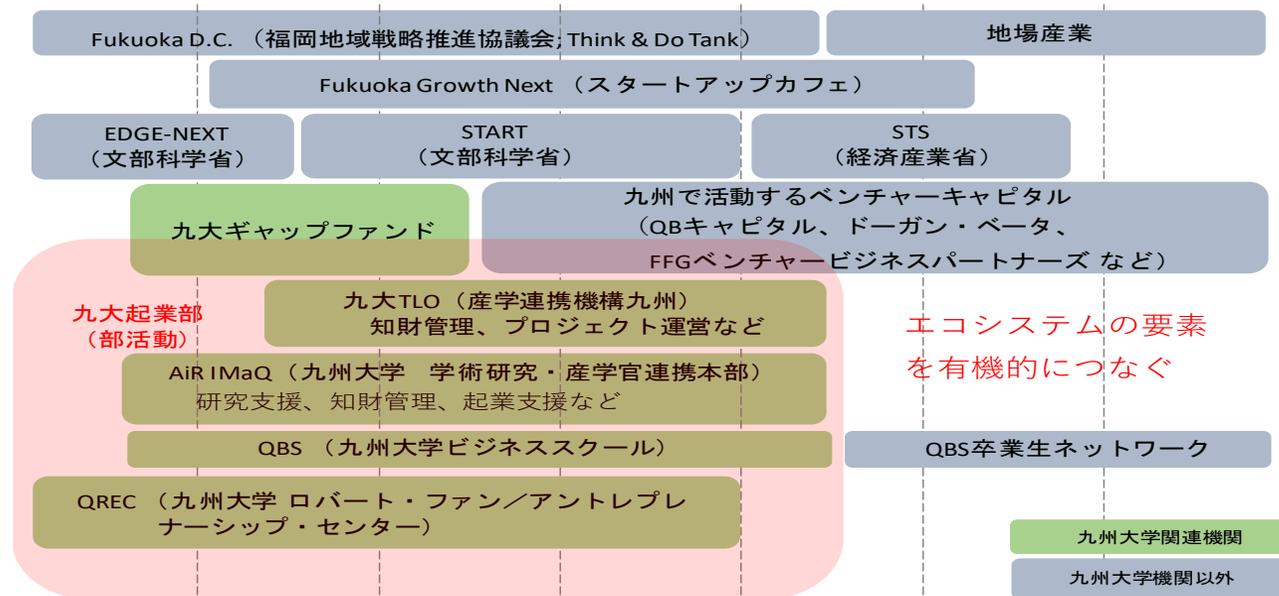
- 大学の周辺に**インキュベーション施設が立地**。
 - 大学発ベンチャーの場合、ウェットラボの確保は難しく、**大学周辺にあるインキュベーション施設への入居に伴い、地域に定着するパターンが多い。**
- **起業家育成に力を入れる大学**
 - 九州大学：実践的教育プログラム、アントレプレナーシップセンター、起業部…
 - 熊本大学：大学発ベンチャー認定制度、リーダー育成プログラム…
 - 長崎大学：アントレプレナーシップセンター、アントレ実践プログラム…



九州エリアの特徴6：ロールモデルとしての九州大学

- 九州大学ロバートファンアントレプレナーシップセンター（QREC）による学部横断的なアントレプレナーシップ教育を実施。
- 九大ビジネススクール（QBS）が技術商業化などの実践的教育プログラムを実施
- C&C（実践プログラム）、九大起業部などの学生の活動が盛ん。
- 九大独自のGAPファンド

様々な機関が参加してる九州大学の起業家支援



エコシステムの要素を有機的につなぐ

Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4	Stage 5	Stage 6	Stage 7
科学的発見	アイデア/技術開発/POC (概念実証)	商業化の実現可能性調査	投資の機会/事業計画策定	会社設立	シード/アーリーステージ	エクспанション/レターステージ

九州エリアの特徴7：スタートアップ都市福岡のシグナル効果



- 福岡市
 - スタートアップ都市ふくおか（2012年）
 - スタートアップカフェ、グローバル創業・雇用創出特区（2014年）
 - Fukuoka Growth Next（2017年）
 - スタートアップエコシステム・グローバル拠点都市（2020年）
 - 福岡市に多数のスタートアップ企業が立地した結果、集積効果が生まれる。
 - Startup Go!Go!、B dash camp、ICC福岡などのイベントが多数開催。
 - 今後は「企業価値10億円企業100社」創出を目指す





THE PLATFORM OF STARTUPS

福岡の中心地にある官民共働型スタートアップ支援施設



- QUANDO
- Newworld
- tsumug
- akibaco-tech
- nyans
- OLERA
- Janect
- Oolface
Drive. To Challenge. Or
- SAULE Technology
- Kids Code Club
- BENNERS
- otta®
- AAKEL
- 九州大学起業部

スタートアップエコシステム拠点都市

【グローバル拠点都市】

スタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム

(東京都、川崎市、横浜市、和光市、つくば市、茨城県等)

スタートアップやVC・大企業等の支援者が圧倒的に集積する東京都心部(渋谷、六本木・虎ノ門、大手町・丸の内、日本橋)を核に、ハブ&スポークの連携で研究開発拠点を有する各都市(川崎、横浜、つくば、和光)と連結。東京大、慶応大、早稲田大など有力大学でWGを作り起業家育成。



Central Japan Startup Ecosystem Consortium

(愛知県、名古屋市、浜松市等)

日本を代表する製造業の集積とスタートアップとの繋がりでイノベーション創出を加速。モビリティ、インフラ、ヘルスケア、アグリ、光などを重点分野に。日本最大級のスタートアップ拠点「Station Ai (フランスのStation Fに対抗)」を整備予定。



大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム (大阪市、京都市、神戸市等)

三都市の強みを融合(大阪:大企業、資金、人材、京都:研究シーズ、製品化支援、神戸:社会実証実験・公共調達)。ヘルスケア、ものづくり、情報通信分野に重点を置き、大学・研究機関が連携。「大阪・関西万博」に向け経済界を含め京阪神一体となった支援体制を構築。



福岡スタートアップ・コンソーシアム (福岡市等)

2012年「スタートアップ都市宣言」以降、一貫して官民協働による起業支援やスタートアップのコミュニティ形成。九州大学「起業部」をはじめ若手の活動が活性化。独立系VCの活躍、大型スタートアップイベントの定期開催、海外との連携強化などエコシステム形成が加速中。



【推進拠点都市】

札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会(札幌市等)、仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会(仙台市等)、広島地域イノベーション戦略推進会議(広島県等)、北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム(北九州市等)



福岡から そしてアジアから - 多くの起業家が集まるベースキャンプへと



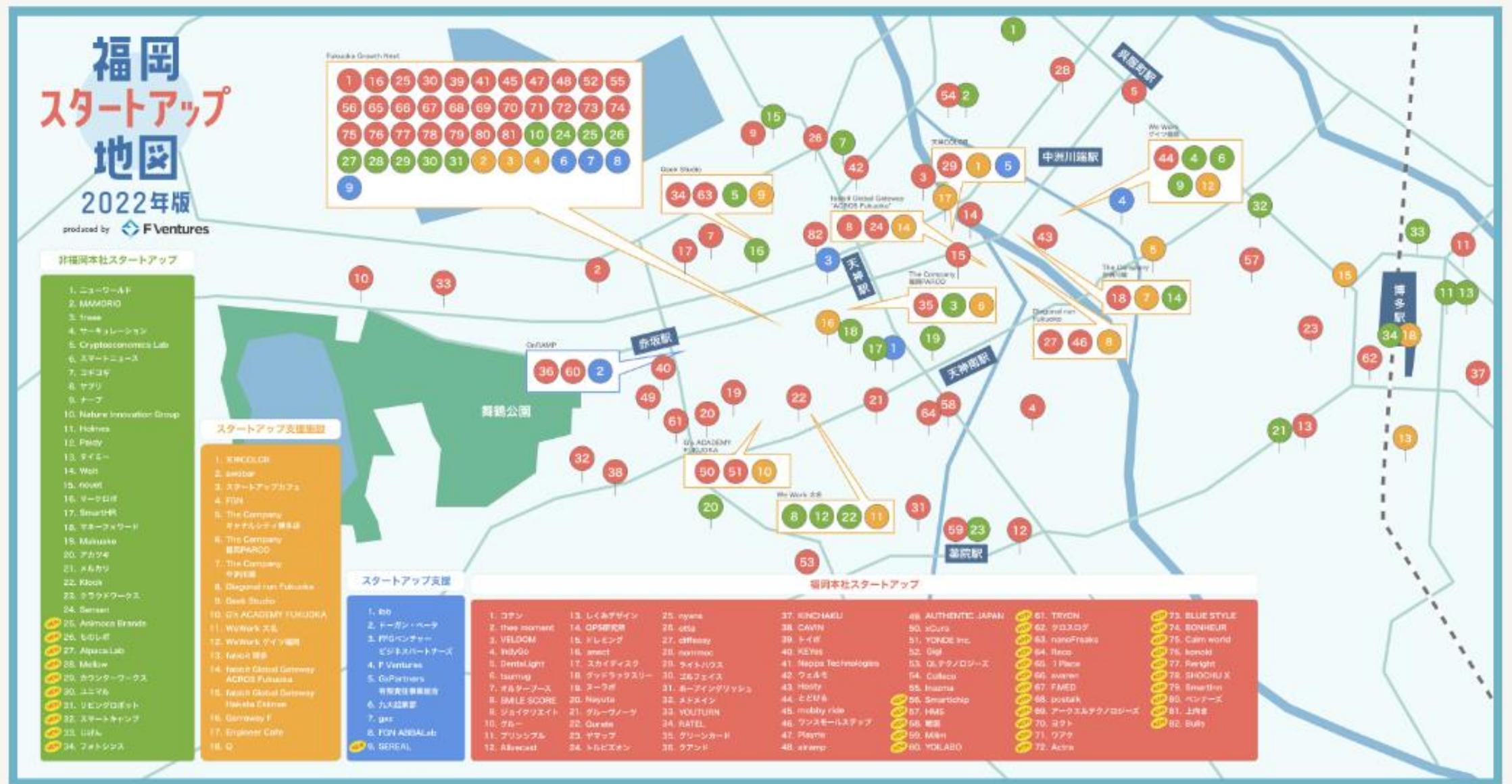
REAPRA 流
持続的に成長する
ベンチャーの作り方



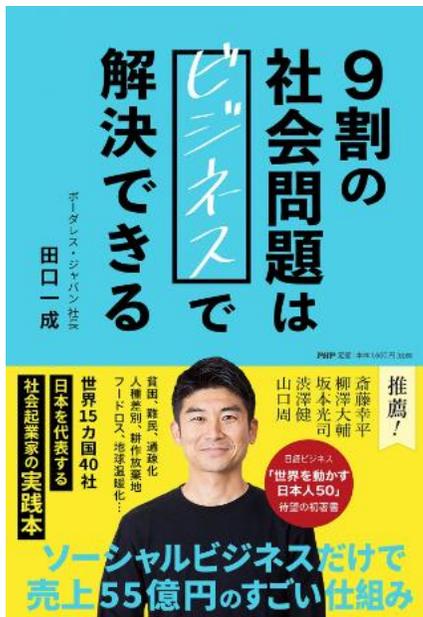
Startup Go! Go! は、起業家にとってのベースキャンプ
一般社団法人StartupGoGo(代表 岸原稔泰 福岡市中央区)



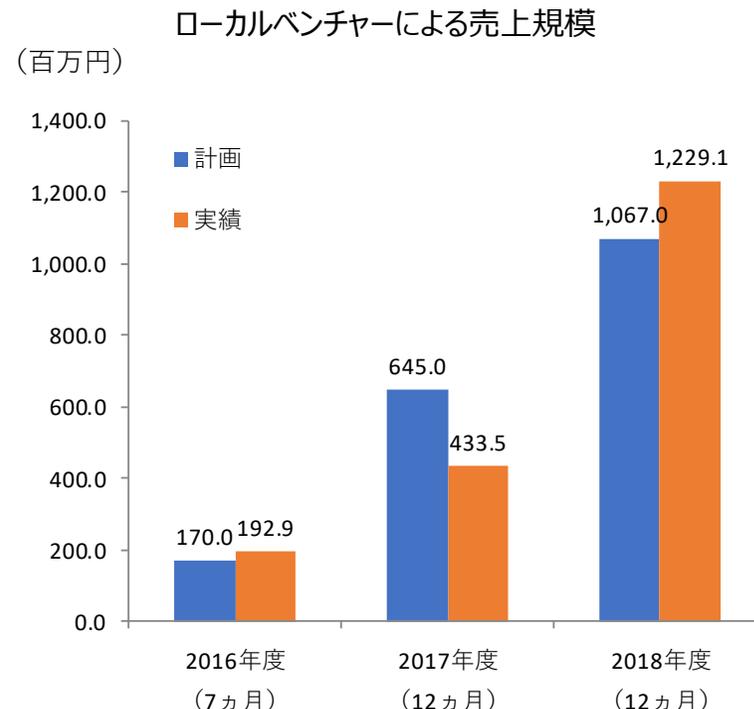
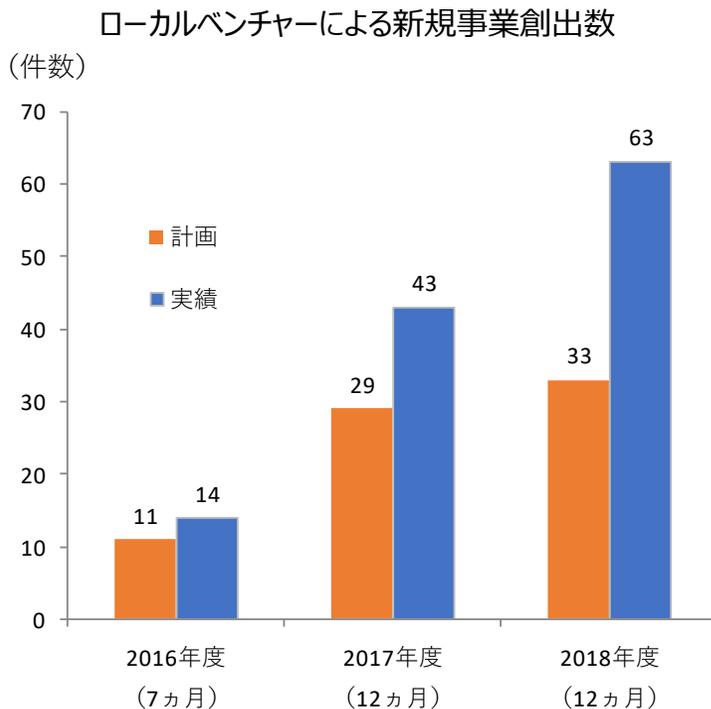
九州エリアの特徴7：福岡市にスタートアップが集積



九州エリアの特徴8：起業家の活躍によるシグナル効果



- **社会起業家が若者の起業意欲を刺激**
- “ソーシャルビジネスを生み出す仕組み”を提供する（株）ボーダレス・ジャパンの田口社長、登山の安全を担保する（株）YAMAPの春山社長等
 - 立ち上げに必要な資金・ノウハウのシェア、売上高55億円のボーダレス・ジャパン
 - 売上高前年比59%増の12.2億円のYAMAP、ユーザーは320万人



九州エリアの特徴9：九州に根差したリスクマネーの存在

- FFGベンチャービジネスパートナーズ(株)
 - 投資、ビジネスモデルのブラッシュアップ、企業パートナーの紹介等ハンズオン支援
 - 大学発スタートアップへの資金提供、アクセラレーションプログラムの提供 など
- QBキャピタル(同)
 - 大学発、技術系スタートアップへの出資に特化。ハンズオン支援するプレ投資プログラム
 - 「大学の研究成果の社会還元」「地域における新産業の創出」
- 大分ベンチャーキャピタル(株)
 - 地銀系VCだが県外案件の取り扱いが多い（リードVCの支援姿勢を評価し、投資判断）
- F VenturesやGx Partnersといったシードキャピタル
- 事業会社による直接投資やCVCの設立

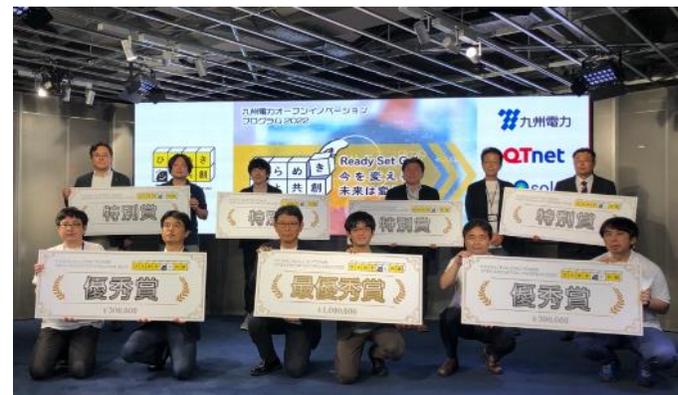
九州地域の主なVC等

地方銀行 信用金庫系	(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ、NCBキャピタル(株)、山口キャピタル(株)、大分ベンチャーキャピタル(株)、(株)佐銀キャピタル&コンサルティング、ひびしんキャピタル(株)（北九州市小倉北区）、(株)宮崎太陽キャピタル、宮銀ベンチャーキャピタル(株)、肥銀キャピタル(株)（熊本市中央区）など
独立系	QBキャピタル（同）、(株)ドーガン・ベータ、Fventures LLP、GxPartners LLP（福岡市中央区）、ABBALabスタートアップファンド LPS ((株)FGN ABBALab（福岡市中央区））など
事業会社 CVC	(株)安川電機（北九州市八幡西区）、SGインキュベート(株)（福岡市博多区）など

九州エリアの特徴10：地元企業のスタートアップ支援

- 新事業展開、研究開発、交流の場作りなど
- アクセラレーションプログラムの展開
- 直接投資やCVCの設立
- 大学発スタートアップの支援（九州・大学発ベンチャー振興会議を通じ、GAP資金やPOCの場の提供）

レガシー企業の
危機感！



PROGRAM

トヨタ九州協働協創プログラム「ひらめきスプリント」

下記のいずれかのテーマに該当する協働協創のビジネスアイデアを募集します。

〈募集テーマ〉

九州から未来を創る

ものづくりDX 町いちばんのモビリティ 町をつなぐMaaS

QTnet

OPEN INNOVATION PROGRAM

TSUNAGU 2022

エントリー受付期間：2022年9月1日（木）～2022年10月31日（月）

最優秀賞 賞金 100万円×1件

優秀賞 賞金 30万円×2件

西日本新聞

九州・大学発ベンチャー振興会議、13大学24件に
5200万円提供

日本経済新聞

トップ 速報 オピニオン 経済 政治 ビジネス 金融 マーケット マネーのまなび テック 国

西部ガスが投資ファンド立ち上げ 40億円で

スタートアップ + フォローする

2019年7月12日 19:04

九州エリアの特徴10：地元企業の支援事例（西鉄）

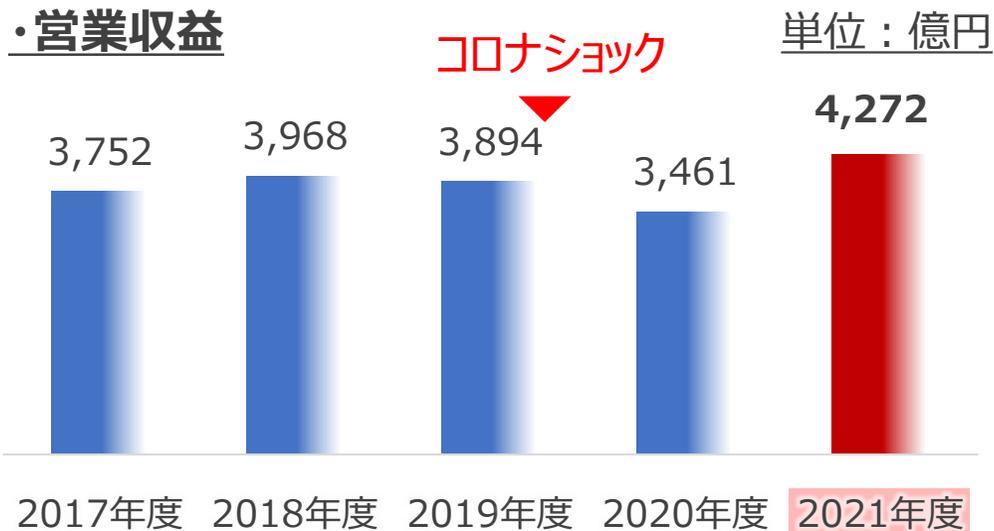
社名	西日本鉄道株式会社（以下、西鉄）
設立/創立	設立：1908年12月17日 / 創立：1942年9月22日
本社	福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目5番7号
資本金	261億5,729万円
代表者	取締役社長執行役員 林田 浩一
事業内容	鉄道および自動車による運送事業、利用運送事業、航空運送代理店業、通関業、不動産の売買および賃貸業、ホテル事業、その他
営業収益	年間1,769億円（2021年度）
営業キ〇	自動車：4,262.0キ〇 鉄 道：106.1キ〇
車両数	自動車：1,630台（乗合バス、貸切バス、特定バス車両） 鉄 道：311両
従業員数	4,600人（他社への出向者等は除く）
グループ会社	86社1学校法人（西日本鉄道(株)含む）



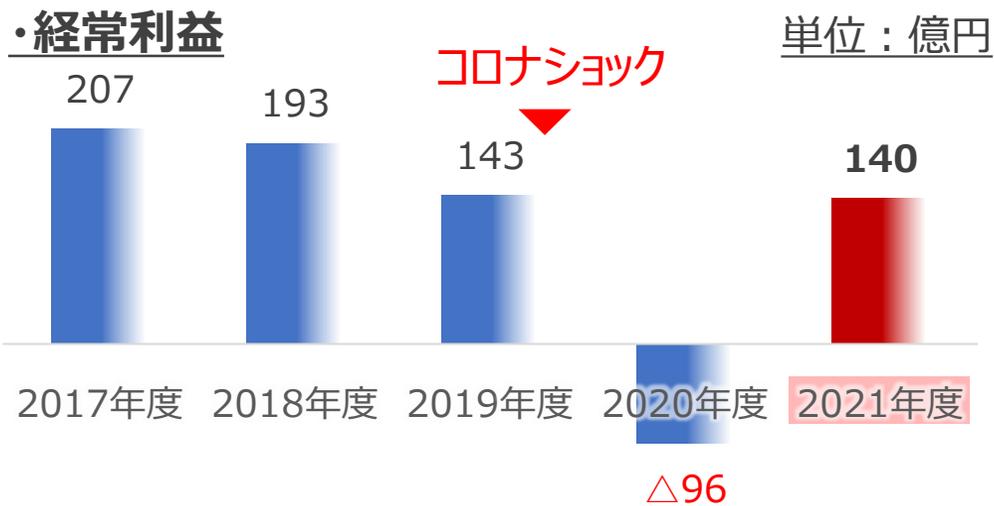
The image includes a map of Japan with a red dot indicating the location of the company's headquarters in the Kyushu region. A callout box provides a detailed map of Fukuoka, with the name 'Fukuoka' written in red cursive below it.

営業収益・経常利益

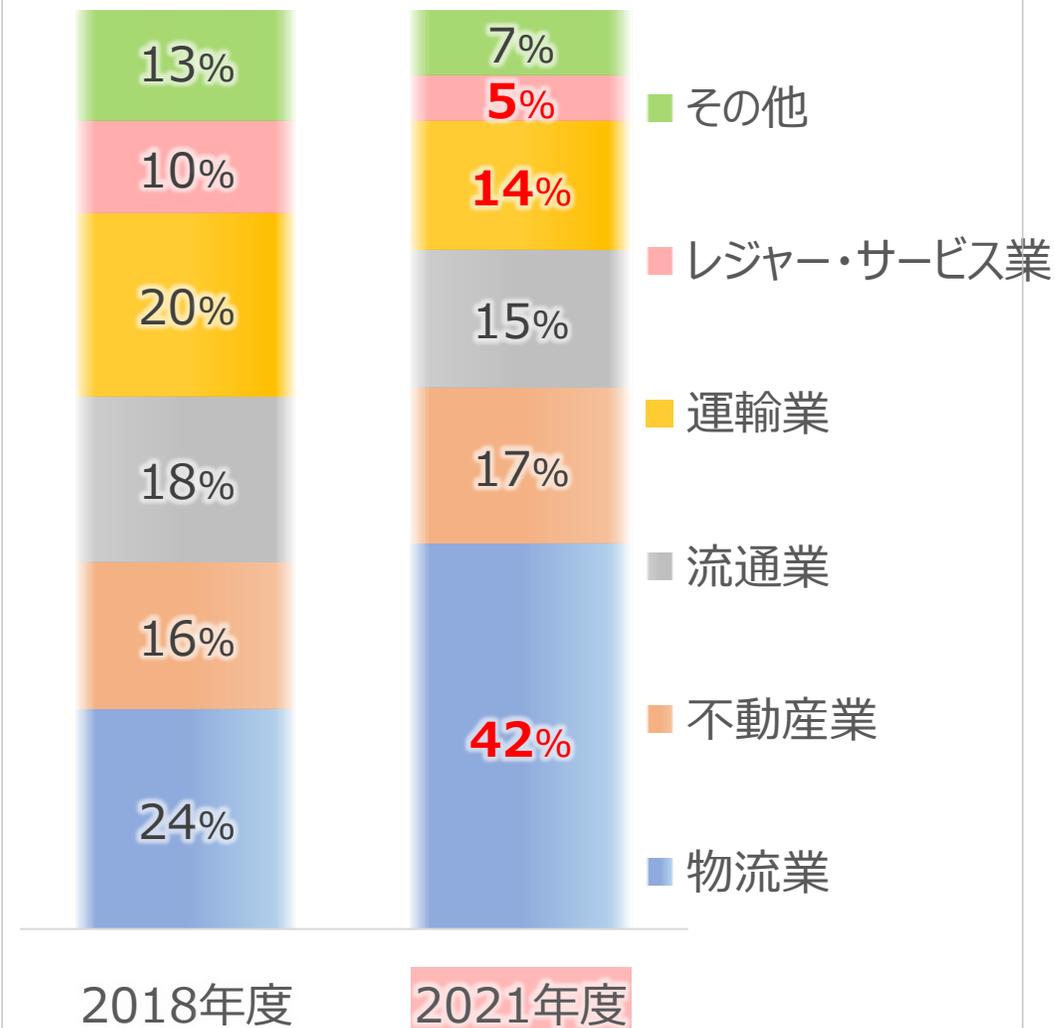
・営業収益



・経常利益



営業収益セグメント別構成比



九州エリアの特徴10：地元企業の支援事例（西鉄）

長期ビジョン「にしてつグループまち夢ビジョン 2035」を策定

今後予測される環境変化から、既存領域とのシナジーが期待される4つの新領域に取り組む

領域

目指す姿

背景にある環境変化



環境資源

再生可能エネルギーの活用とサーキュラーエコノミーで持続可能なまちづくりを実現

- EV化の進展
- 太陽光や風力の主力電源化
- サーキュラーエコノミー関連ビジネスの増加



農水産

食のビジネスで、地域産業の活性化とブランド化を実現

- 農林水産物の輸出増
- 世界人口の増加 ⇄ 国内人口の減少
- 食料安全保障対策の強化



ウェルネス

健康寿命の延伸に関わる新事業で、自分らしく健康に生きられる社会を実現

- 国内人口の減少、平均寿命の延伸
- 産業別就業者数で医療福祉が大幅に増加
- 介護人材不足



地域ソリューション

地域の課題や環境、地域資源に応じたソリューションでローカルの新たな価値を創出

- 地方での人口減少、産業衰退
- デジタル化の進展
- 消費者行動の多様化



スタートアップ（ベンチャー企業）等の優れたアイデア・技術と、西鉄グループの経営資源を組み合わせ、新たなビジネスの創出やサービスの革新を目指すプログラムです。



- ✓ 過去2回開催（2015年度、2016年度）西鉄グループの全事業領域に対し、幅広く協業プランを募集。
- ✓ 過去2回で計109社から事業提案があり、9社と協業実施。

スマートバス停とは？



× 西鉄不動産株式会社

不動産賃貸物件入居者とのコミュニケーションツールアプリの開発



×



西鉄旅行

×



台湾ゴルファー向け総合インバウンドツアーの実施

オープンイノベーションプログラム 西鉄Co+Lab

BUS STOP 3.0

～夢を描く未来のバス停を創ろう～

通学、通勤。
お出かけ、旅立ち。
お客様の様々なご移動を、そっと支え続けてきたバス停。

そんなバス停を、
移動の発着点として、街や暮らしの拠点として、
新たな価値をご提供できる場にアップデートさせたい。

BUS STOP 3.0は、皆さまと一緒にこれからのバス停を共創するプログラムです。



再生可能エネルギー電源開発等エネマネの取り組み



2022年4月

西鉄と自然電力(株)による、『西鉄自然電力合同会社』を設立

社名	西鉄自然電力合同会社
所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目5番7号
代表社員	代表社員 西日本鉄道株式会社 職務執行者 林田安弘
事業内容	1.自然エネルギー等による発電事業およびその管理・運営 並びに電気の供給、販売等に関する業務 2.発電設備、蓄電池等によるエネルギーマネジメント事業
資本金	1,000万円
設立年月日	2022年4月15日
出資比率	・西日本鉄道株式会社 (50%) ・自然電力株式会社 (50%)

《太陽光設置イメージ》



└ 屋根上太陽光発電設備

《沿線自治体との連携》



└ 事業機会の創出と地域貢献を目指す

● 西鉄が考える(株)EVモーターズ・ジャパンとのリレーションシップ

- ・運輸業や物流業をはじめ、エネルギー分野においても西鉄と相性がよい。
(2022.4 同社へ出資)
- ・西鉄は、年間約1,000台のバスを制作していた実績があり、現在のグループ会社はそのノウハウを引き継いでいる。
- ・福岡発の有望なスタートアップであり、スタートアップエコシステムの推進に貢献できる。



(株)EVモーターズ・ジャパン 佐藤社長

(株)EVモーターズ・ジャパンとのシナジー獲得に向けた取り組み

・国際物流事業本部

中国からの製品輸送に向けた協業検討



・西鉄運輸(株)

EV物流車の導入に向けた検討



・西鉄車体技術(株)、西鉄エム・テック(株)

EVバスの修理・点検等の受注に向けた検討



・福岡小松フォークリフト(株)

北九州工場へのフォークリフト導入検討



・西鉄自然電力(同)

北九州工場への太陽光発電導入検討



北九州市

EVモーターズ・ジャパン

福岡県

福岡小松フォークリフト

西鉄エム・テック

西鉄運輸

佐賀県

西鉄車体技術

2025年春 “新福岡ビル（仮称）”開業



2022年7月27日

西日本鉄道株式会社

<https://www.nishitetsu.jp/>

CIC(ケンブリッジ・イノベーション・センター)

<https://cic.com/>



西鉄とCICは（仮称）新福岡ビルに
イノベーションキャンパスを創設するための
検討に着手します
～世界トップクラスのイノベーションキャンパスを福岡に～



出所：Google Maps

FFGベンチャービジネスパートナーズ の取り組みについて

VCからみたスタートアップの課題

1. 経営人材・チームの不足

社長のアントレプレナーシップが重要。適切な**経営チームの組成**が必要。経営経験の伝達が出来ていない。メンタリングが不足。

2. 知財・技術マーケティングと応用研究の不足

市場ニーズの把握が必要。**世界で競争できる強い知財・技術の強化**が必要。**POCを達成**するための**応用研究**が不足。

3. 顧客志向型のビジネスモデルの構築が出来ない。

PMFするビジネスモデル構築が必要。**事業構想力**が不足。

4. 事業化段階で応用研究のための資金が不足

シード段階での圧倒的な資金不足。**GAP資金**が不足。

5. 外部リソースの活用不足

企業とのパートナーリング（生産、販売、研究開発）が不足。オープンイノベーションの未成熟。**地域エコシステムの利用**が不足。

VCからみたスタートアップ育成環境の課題

シード段階での圧倒的な**資金不足**
死の谷を越えるため
応用研究や事業化を検討する
GAP資金に対する理解不足

起業家教育の不足
アクセラレーターの不足

特定の民間企業（ベンチャー企業）を
優遇する政策に対するアレルギー
雇用創出に対する理解不足

エコシステムの形成が未熟
オープンイノベーションの不足（地元企業の理解不足）

スタートアップ育成の課題を解決するために

FFGベンチャービジネスパートナーズが
スタートアップ育成のために提供する
ソリューション

1. スタートアップ投資
2. GAP資金＋教育プログラム
3. スタートアップエコシステムの形成

九州・大学発ベンチャー振興会議

エコシステム

- 大学の技術シーズの事業化を目指し、産学連携による実践的支援を行う「九州・大学発ベンチャー振興会議」の事務局として2017年より事業を主導。

述べ88件の技術シーズを提示

九州域内の13大学



九州・大学発ベンチャー振興会議

累計1億円超のGAPファンド

経済界

- 事業性評価
- **ギャップ資金** 拠出
- 生産設備貸出 など

13の企業
11の金融機関が参画

事務局



FFGベンチャービジネスパートナーズ



17社スタートアップ
外部調達資金 10億円超
FVPは、3社に投資。

ベンチャーキャピタル

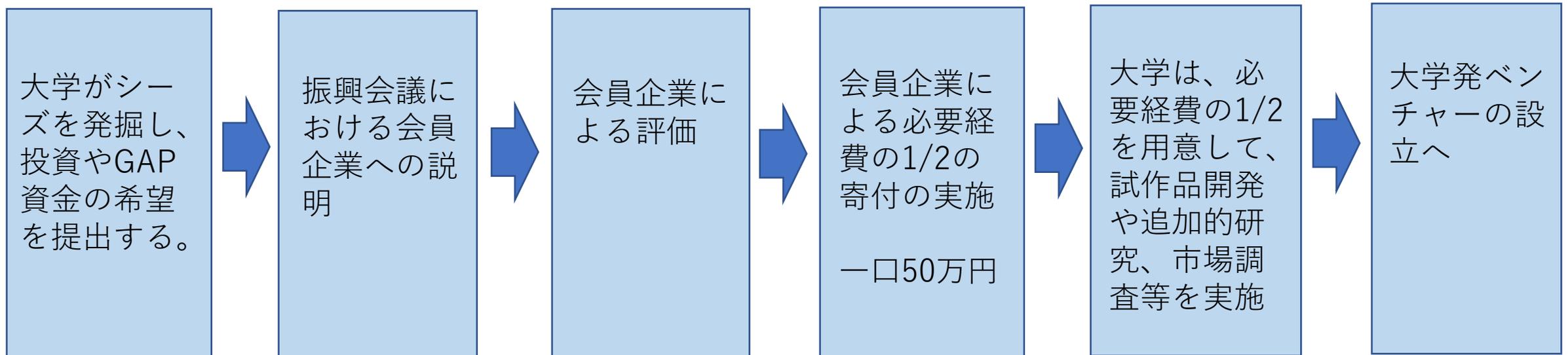
- **インキュベーションプログラム**
- 技術評価と市場性評価
- START等補助金申請支援
- 協調投資の斡旋 など

九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金

GAP資金

- 九州・大学発ベンチャー振興会議に所属する会員企業が一丸となって、**大学発ベンチャーを振興するためのGAP資金を提供する**。年間で総額50百万円の資金提供を目標とする。
- 各企業は、自ら研究シーズを選択し、大学に直接寄付を行う。(1口50万円。)
- FFGは、傘下の**キューテック財団**より、上限30百万円の助成金を支給する。
- **GAP資金**とは、大学における研究開発と事業化や投資に至るまでのギャップを埋めるため、また、大学の研究成果に商業的価値があるかどうかを検証するために、研究者に対して**POC達成のための試作品の開発**や**追加的な研究、市場調査**などを行う資金の事である。

■ 九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金



研究開発助成 プロジェクト募集!

応募資格

原則として、創業後10年以内または新技術・新製品等の研究開発に取り組み後3年以内で九州(沖縄県除く)・山口地域に本社があるベンチャー企業・中小企業。または、九州(沖縄県除く)・山口地域の大学・高専。

大学・高専

【助成交付額】

助成決定時 **前払い**

500万円以内/プロジェクト

募集期間:2022年4月1日~2022年6月30日

ベンチャー企業・
中小企業

【助成交付額】

助成決定時 **前払い**

500万円以内/プロジェクト

募集期間:2022年7月1日~2022年9月30日

一般財団法人

ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団

(事務局 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ)

〒810-0001 福岡市中央区天神2-13-1 福岡銀行本店ビル5階

TEL (092) 723-2139 FAX (092) 781-4210

URL: <http://www.kyutec.or.jp>

E-mail: info-fk@kyutec.or.jp



助成金

採択企業にはプログラムスタート時に助成金として100万円をサポート



知財サポート

技術保護のための知的財産戦略立案等をサポート



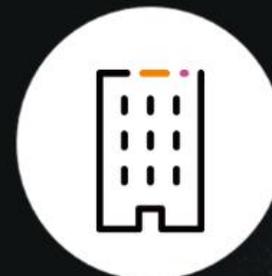
コミュニティの醸成

スタートアップ・VC・メンター・サポート企業間のコミュニティが醸成できる。運営からのマンツーマンのサポート体制。



ノウハウの伝達

第一線のメンターによるナレッジの伝達。共同運営しているUPDRAFTプログラムに参加可能。



サーバ利用

AWSのサーバ利用についてサポート(一定の条件あり)

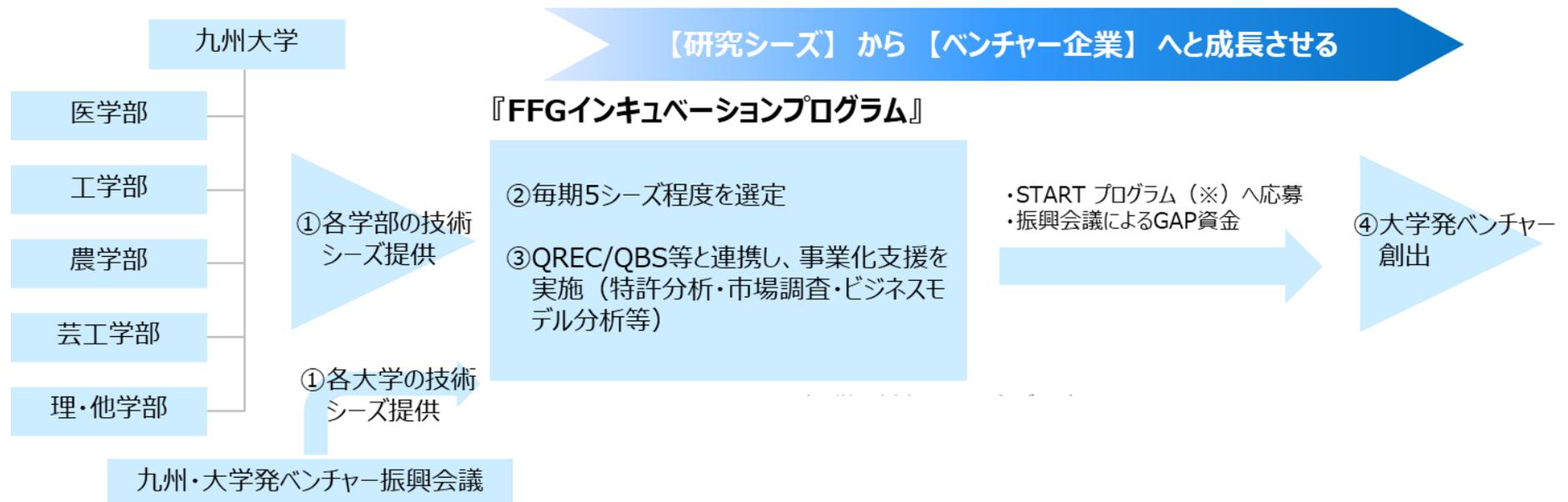
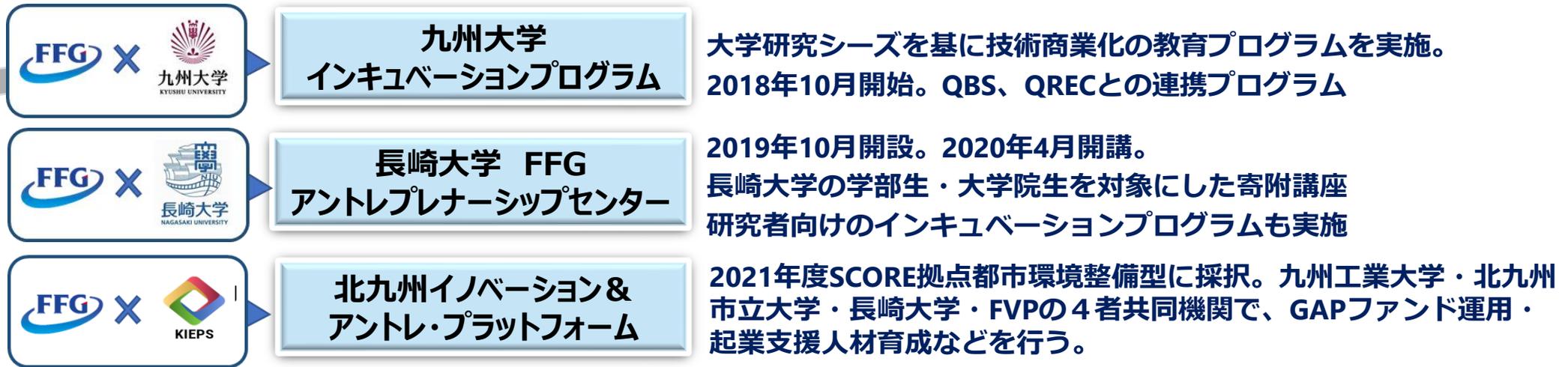


さらなる資金サポート

アクセラレーションプログラム終了後にKYUTECが募集予定の研究開発助成金(500万円)の書類審査を免除。

大学向け知財・技術事業化支援プログラムの提供

事業化教育





オール九州スタートアップエコシステムプラットフォーム

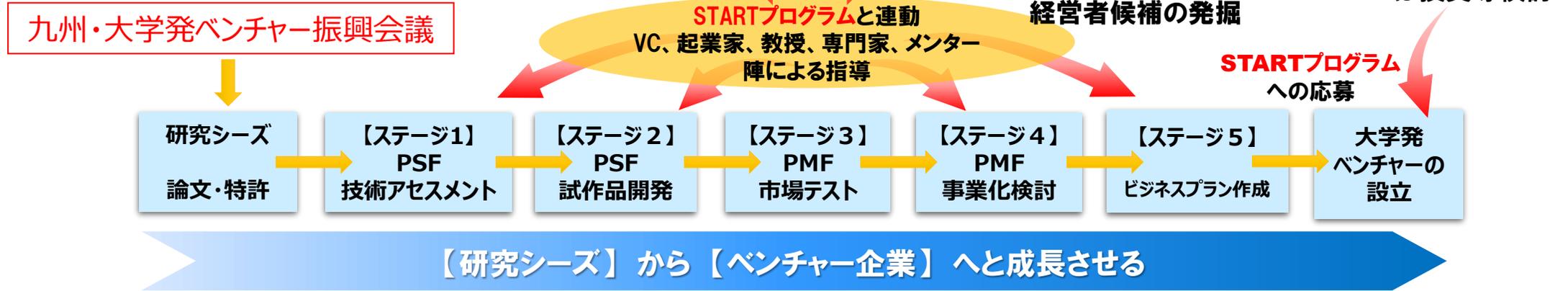
教育 + GAP資金



大学向け知財・技術事業化支援の成果

教育 + GAP資金 + 投資

〔大学発ベンチャー創出の流れ〕



【事例】 KAICO（株）（九大農学研究院日下部教授 + 工学研究院神谷教授）

JST・STARTプログラム案件、九州大学ギャップファンドから大学発ベンチャー第1号、九州・大学発ベンチャー振興会議案件。2018年4月設立 / 代表取締役：大和 建太（QBS卒業生）累計300Mの資金調達。食べる新型コロナ・ワクチンを開発中。



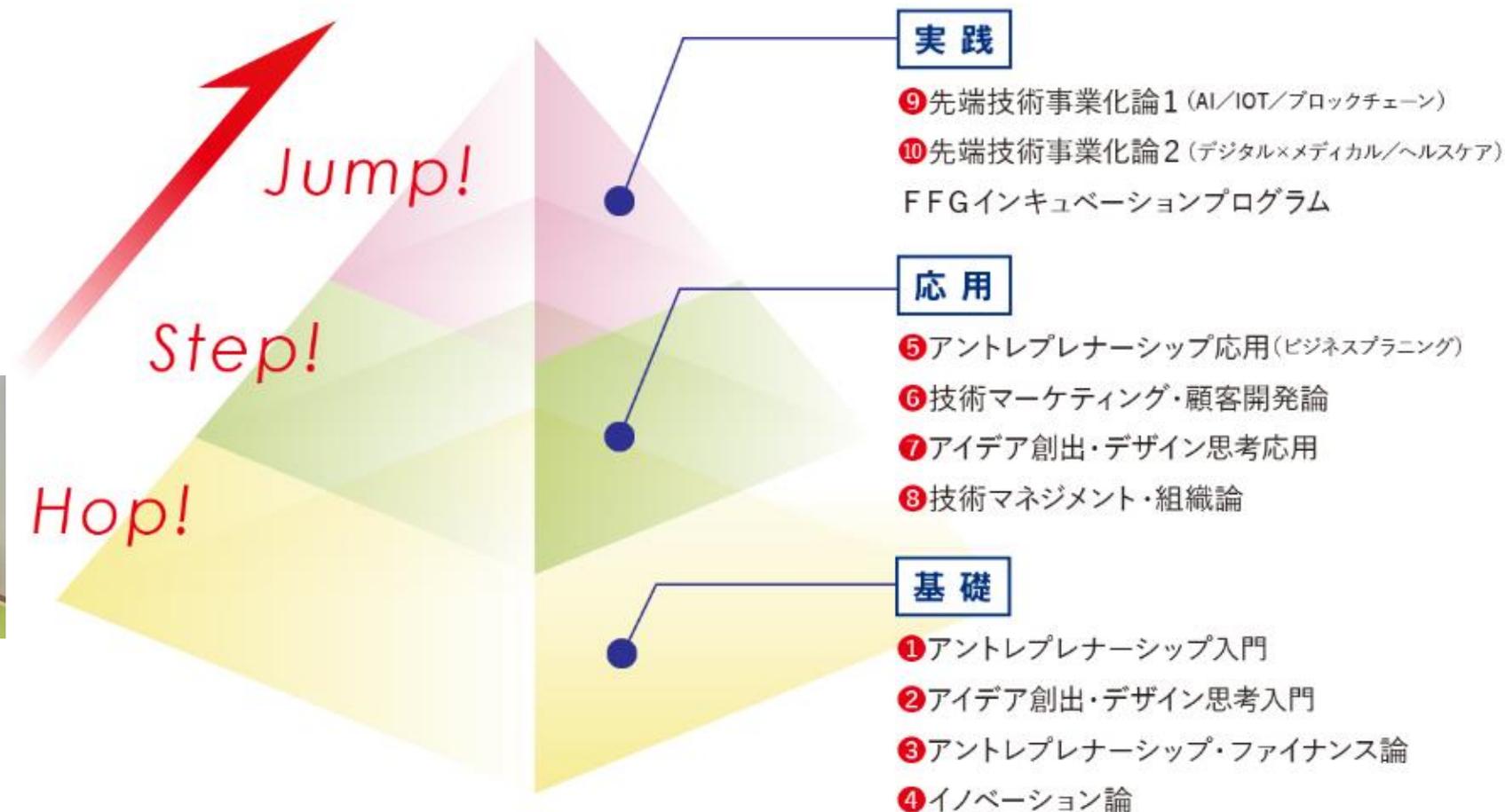
福岡市の施設（福岡市産学連携交流センター）に入居



NFECの使命

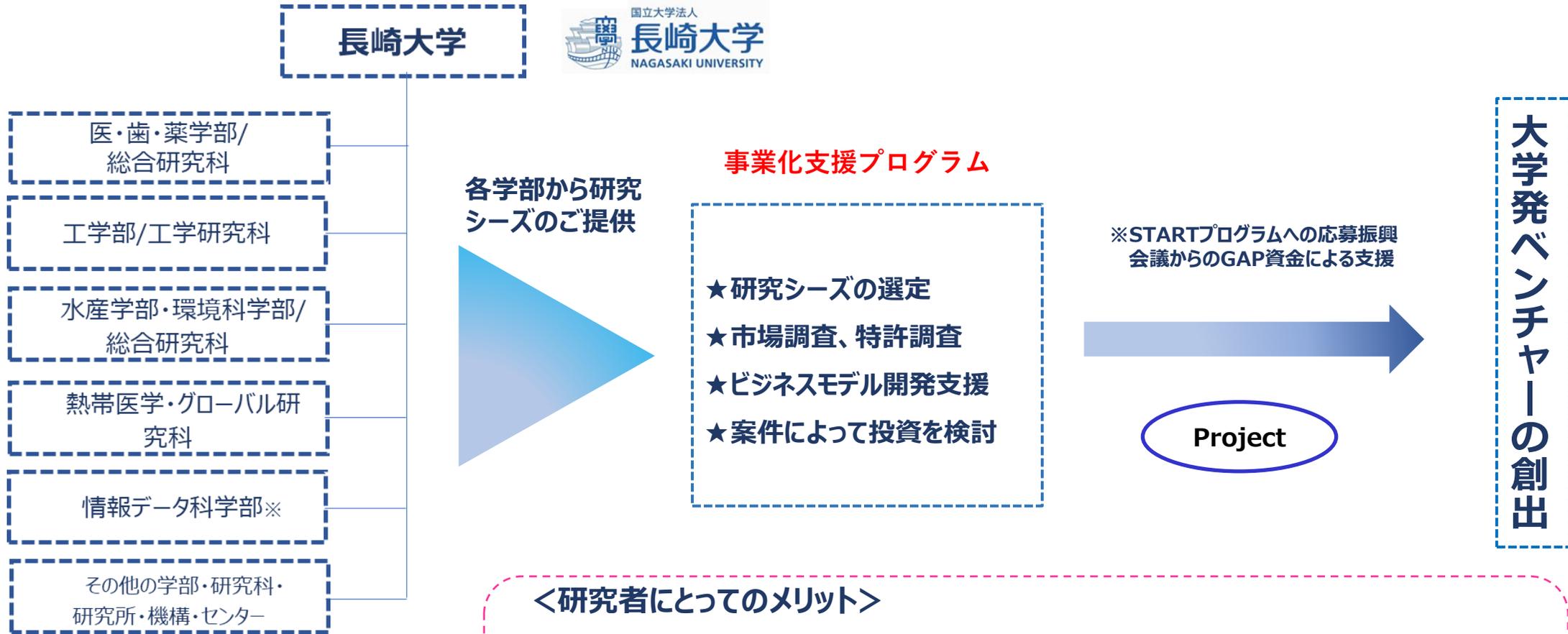
1. アントレプレナー人材の育成
2. 大学発ベンチャーの創出

プログラムロードマップ



長崎大学・FFGインキュベーションプログラム

教育 + GAP資金



※2020年4月新設

<研究者にとってのメリット>

- ★STARTプログラムや各種助成金への採択可能性が高まる。
- ★事業化を行うベンチャー経営チームの組成が促進される。
- ★研究シーズの市場調査・特許調査等を通じて、様々なフィードバックを得られる。

※STARTプログラム（大学発新産業創出プログラム） 研究開発と事業育成を支援するJST（科学技術推進機構）のプログラム。

九州オープンイノベーションファンドの設立

教育 + 投資

- ◆ 弊社とGxPartnersとの共同GPによるファンド。2019年4月、10億円規模で1号ファンド設立。2022年8月、2号ファンド設立。
- ◆ 福岡では、**スタートアップに投資**するファンドが少ない。**アーリーステージ**に特化。
- ◆ LP企業との**協業**が特徴。LP企業向けの**アクセラレーションプログラム**を展開。

主な機関投資家

福岡銀行

Nishitetsu Group

IDEX QTnet

西日本新聞社

Make Next. 九電工

西都ホスグループ SGインキュベート株式会社

TOPPAN

三井松島ホールディングス MITSUI MATSUSHIMA HOLDINGS

ココロがある。コタエがある。 西日本シティ銀行

WORLD HOLDINGS

UP DRAFT StartupGoGo Presents Acceleration Program

アクセラレーションプログラム



チーム組成



VCメンタリング



起業のファイナンス



プレゼン技術



株式・ストックオプション



海外の情報



創業時の失敗談・MAの考え方



マーケティング・KPI設計



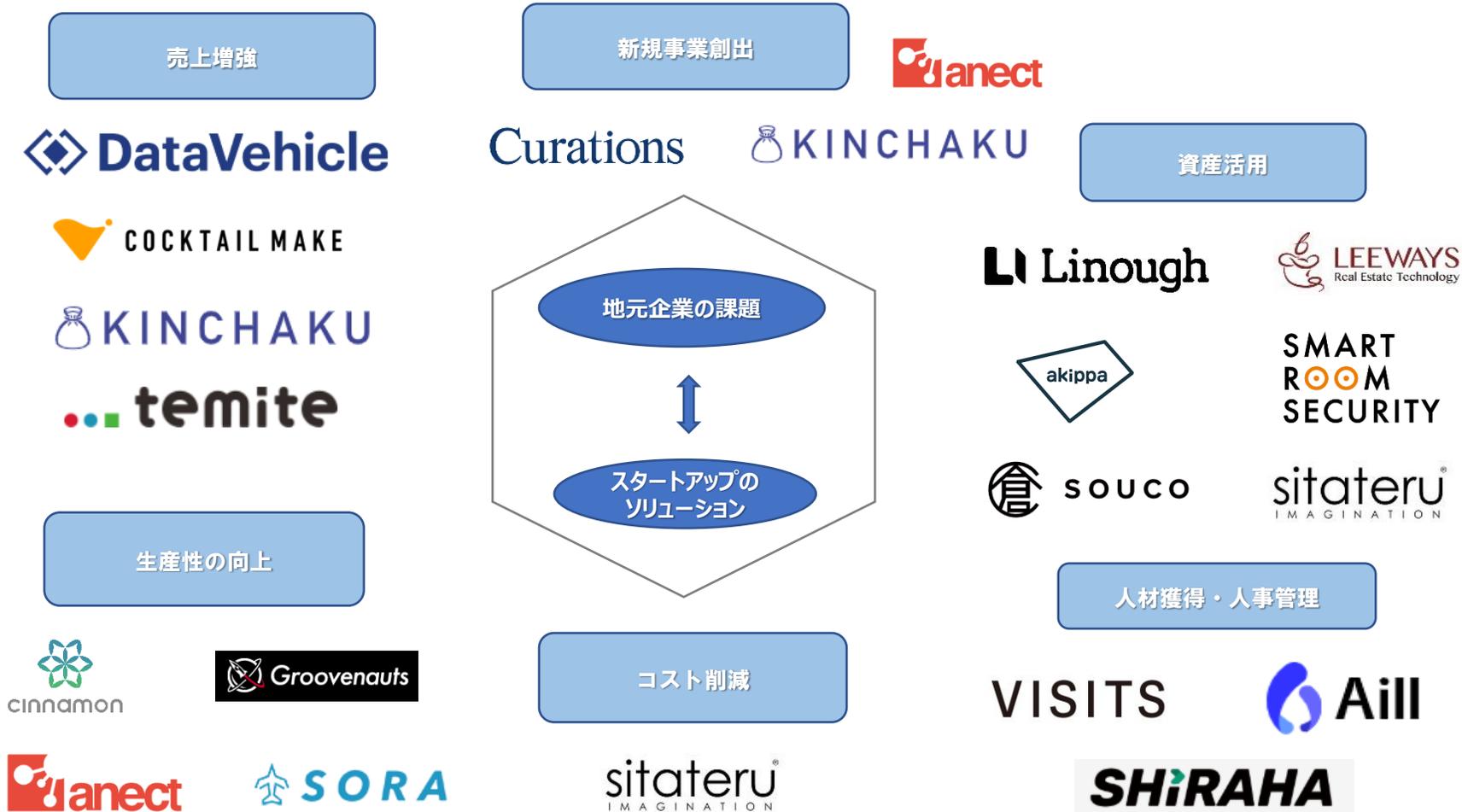
アイデアと課題の検証



FFGベンチャー投資先とFFG取引先とのマッチング

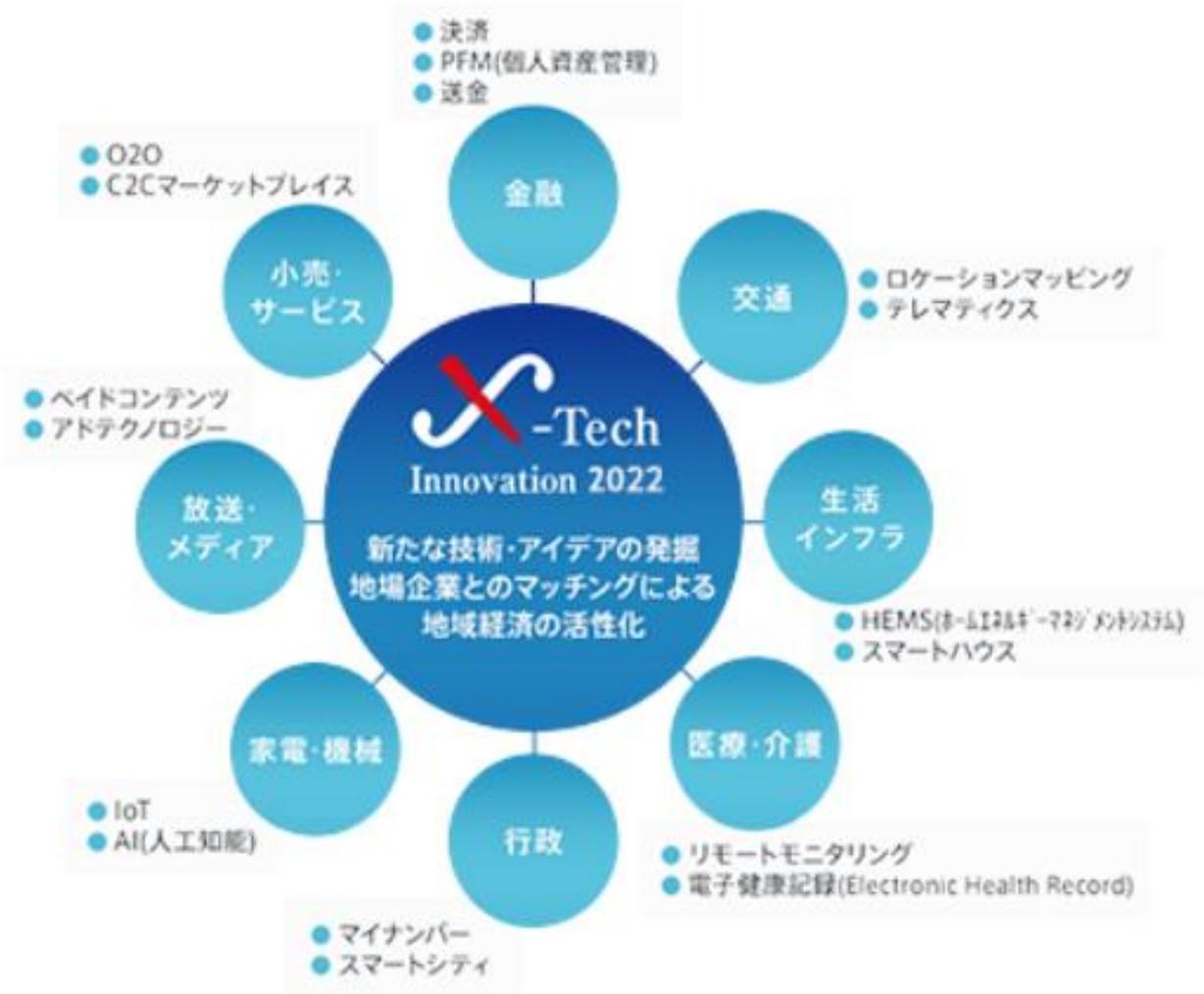
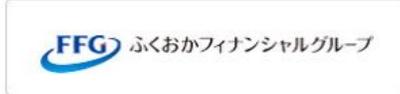
エコシステム

- 2019年 第5回 X-tech Innovation 第2回 X-tech Match-up 開催
- ◆FFG取引先の課題を投資先ベンチャーのソリューションにより解決する。
 - ◆東京進出のサポート。九州展開のサポート。アジア展開のサポート。



地銀5行共同開催のピッチイベント X-Tech Innovation

エコシステム



本日講演のまとめ

起業家・大学等の
ソリューション

最先端の研究開発
知財・ノウハウの確立
とビジネス開発

地域の課題
顧客のニーズ

マーケティング
グローバルなもの
条件不利なほど良い

リスクマネー
の投下

VCの集積
地域金融機関の役割認識

CXO

スタートアップ
の育成

産官学金による
エコシステム構築

オープンイノベーション
政策の企画と発信
起業家教育の提供
金融機関による資金循環
CXO人材の提供

知行合一 *Action!*

ご清聴ありがとうございました。

ご質問は、下記アドレスまで。
yamaguchi0330@gmail.com